

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成23年6月29日

【事業年度】 第51期(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

【会社名】 ダイハツディーゼル株式会社

【英訳名】 DAIHATSU DIESEL MFG.CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 原田 猛

【本店の所在の場所】 大阪市北区大淀中一丁目1番30号

【電話番号】 06-6454-2332

【事務連絡者氏名】 常務取締役 中村 健

【最寄りの連絡場所】 大阪市北区大淀中一丁目1番30号

【電話番号】 06-6454-2331

【事務連絡者氏名】 総務部長 水科 隆志

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期	第48期	第49期	第50期	第51期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
(1) 連結経営指標等					
売上高 (百万円)	53,307	60,677	71,351	63,782	58,108
経常利益 (百万円)	3,324	5,646	6,906	5,312	6,160
当期純利益 (百万円)	1,666	2,393	3,747	3,475	3,528
包括利益 (百万円)					3,400
純資産額 (百万円)	11,301	13,118	15,751	19,125	22,271
総資産額 (百万円)	59,427	62,437	68,283	64,007	66,557
1株当たり純資産額 (円)	338.83	400.12	494.45	600.35	699.12
1株当たり当期純利益金額 (円)	58.44	75.18	117.71	109.15	110.83
自己資本比率 (%)	18.2	20.4	23.1	29.9	33.4
自己資本利益率 (%)	18.48	20.35	26.3	19.9	17.1
株価収益率 (倍)	11.93	11.57	4.82	3.16	3.82
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,896	4,968	9,913	3,499	9,790
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,244	3,083	4,518	3,133	1,442
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	829	3,191	3,086	2,027	1,592
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	6,817	5,498	7,199	5,635	12,265
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	1,216 (195)	1,219 (215)	1,177 (254)	1,165 (173)	1,141 (152)
(2) 提出会社の経営指標等					
売上高 (百万円)	41,465	50,659	57,774	57,783	52,448
経常利益 (百万円)	2,179	3,767	2,735	3,706	5,528
当期純利益 (百万円)	850	2,149	1,515	2,302	3,542
資本金 (百万円)	2,434	2,434	2,434	2,434	2,434
発行済株式総数 (千株)	31,850	31,850	31,850	31,850	31,850
純資産額 (百万円)	9,767	11,517	12,671	14,807	18,054
総資産額 (百万円)	47,538	56,650	60,109	58,864	60,870
1株当たり純資産額 (円)	306.74	361.72	397.99	465.07	567.09
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	5.00 ()	7.00 ()	8.00 ()	8.00 ()	8.00 ()
1株当たり当期純利益 金額 (円)	29.79	67.52	47.60	72.30	111.27
自己資本比率 (%)	20.5	20.3	21.1	25.2	29.7
自己資本利益率 (%)	10.07	20.2	12.5	16.8	21.6
株価収益率 (倍)	23.40	12.89	11.91	4.77	3.80
配当性向 (%)	16.8	10.4	16.8	11.1	7.2
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	850 (60)	880 (88)	887 (126)	907 (112)	903 (96)

- (注) 1 連結売上高及び売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については潜在株式がないため記載しておりません。
- 3 従業員数は就業人員数を表示しております。
- 4 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

2 【沿革】

昭和41年 5月	ダイハツ工業株式会社から、船舶用および汎用ディーゼル機関の製造・販売を行っていた大阪事業部を分離し、新たに「ダイハツディーゼル株式会社」を設立。
昭和43年 8月	九州地区の内燃機関販売代理店として長崎マリンサービス株式会社を設立。(現ダイハツディーゼル西日本株式会社・連結子会社)
昭和44年 8月	滋賀県守山市に守山工場を建設、操業開始。
昭和45年 4月	株式額面金額を変更するため会社合併を行った。(登記上の設立年月日：昭和14年4月29日)
昭和45年 4月	四国地区の内燃機関販売代理店としてダイハツディーゼル今治サービス株式会社を設立。(現ダイハツディーゼル四国株式会社・連結子会社)
昭和47年12月	近畿・中国・山陰地区の内燃機関販売代理店として中日本ダイハツディーゼル販売株式会社を設立。(現ダイハツディーゼル中日本株式会社・連結子会社)
昭和52年11月	大阪証券取引所市場第二部に株式を上場。
昭和54年 1月	滋賀県守山市に守山第二工場を建設、操業開始。
昭和54年 1月	関東・東北・北海道地区の内燃機関販売代理店として東日本ダイハツディーゼル販売株式会社を設立。(現ダイハツディーゼル東日本株式会社・連結子会社)
昭和56年 9月	米国に北・中米総販売代理店としてDAIHATSU DIESEL (U.S.A.) , INC. を設立。(現DAIHATSU DIESEL (AMERICA) , INC.・連結子会社)
昭和56年12月	内燃機関の塗装・梱包・運送を目的としてダイハツディーゼル輸送株式会社を設立。(現ディーエス商事株式会社・連結子会社)
昭和57年 1月	中国の安慶中船柴油機有限公司および陝西柴油機重工有限公司とディーゼルエンジンに関する技術提携契約を締結。
昭和57年 8月	シンガポールにアジア総販売代理店としてDAIHATSU DIESEL (SINGAPORE) PTE. LTD. を設立。(現DAIHATSU DIESEL (ASIA PACIFIC) PTE. LTD.・連結子会社)
昭和58年 8月	守山第二工場に部品センター、研究工場を建設。
昭和58年10月	英国に欧州総販売代理店としてDAIHATSU DIESEL (EUROPE) LTD. 設立。(現・連結子会社)
昭和61年 4月	情報通信業務を株式会社ダイテクとして独立、設立。(現・連結子会社)
昭和61年 9月	近畿地区の部品販売会社としてディー・ディー部品サービス株式会社を設立。(現ダイハツディーゼル部品サービス株式会社・連結子会社)
昭和61年11月	守山第二工場に精機メカトロ工場を建設、精機メカトロの生産開始。
平成 2年 9月	大阪市中央区に本社移転。
平成 3年11月	旧本社跡地に積水ハウス株式会社他 2社と再開発事業を行うにあたりダイハツディーゼル梅田シティ株式会社を設立、貸事務所および駐車場業を開始。(現・連結子会社)
平成 5年12月	中国に上海事務所を開設。
平成 6年 1月	英国LRQAから国際品質標準規格のISO9001の認証を取得。
平成11年 2月	株式会社トヨタタービン&システムと小型ガスタービンの販売提携契約を締結。
平成11年 6月	守山第二工場に物流工場を建設、倉庫賃貸業を開始。
平成12年 5月	ダイハツディーゼル機器株式会社と株式会社ニッカナの2社を建築機器関連事業の再構築を図るために合併、新たにダイハツディーゼル エヌ・エイチ・エヌ株式会社を設立。
平成12年 5月	中国に中国総販売代理店としてDAIHATSU DIESEL (SHANGHAI) CO., LTD. (現・連結子会社)を設立。

平成12年12月	守山工場に国際環境基準ISO14001の認証を取得。
平成13年10月	守山第一工場に技術開発センター、史料館を建設。
平成16年4月	台湾に台湾事務所を開設。
平成16年10月	三井造船株式会社とガスエンジンに関する技術提携契約を締結。
平成17年4月	ダイハツディーゼルエヌ・エイチ・エヌ株式会社を会社分割、承継会社としてNHN興産株式会社、分割新設会社としてダイハツディーゼルエヌ・エイチ・エヌ株式会社を設立。
平成17年5月	守山第二工場に発電設備を建設。株式会社フェスコパワーステーション滋賀と賃貸契約を締結。
平成17年7月	大阪市北区に本社移転。
平成17年9月	守山工場に中国船級社(CCS)工場認定を取得。
平成19年3月	増資により2,028万円の資金調達を行った。
平成19年7月	安慶中船柴油機有限公司との共同出資による合弁会社DAIHATSU DIESEL ANQING IRONWORKS.CO., LTD.を設立。
平成19年9月	社団法人日本船用工業会とスーパークリーンマリンディーゼルに関する技術提携契約を締結。
平成20年5月	守山第二工場に研究開発センターを建設。
平成22年3月	ダイハツディーゼルエヌ・エイチ・エヌ株式会社を清算結了。
平成22年7月	韓国「斗山エンジン社」とライセンス契約締結。
平成22年9月	三井造船との共同出資による合弁会社「MDエンジニアリング株式会社」を設立。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社および子会社等17社より構成され、内燃機関・産業機器の製造販売事業および不動産賃貸事業を展開しています。

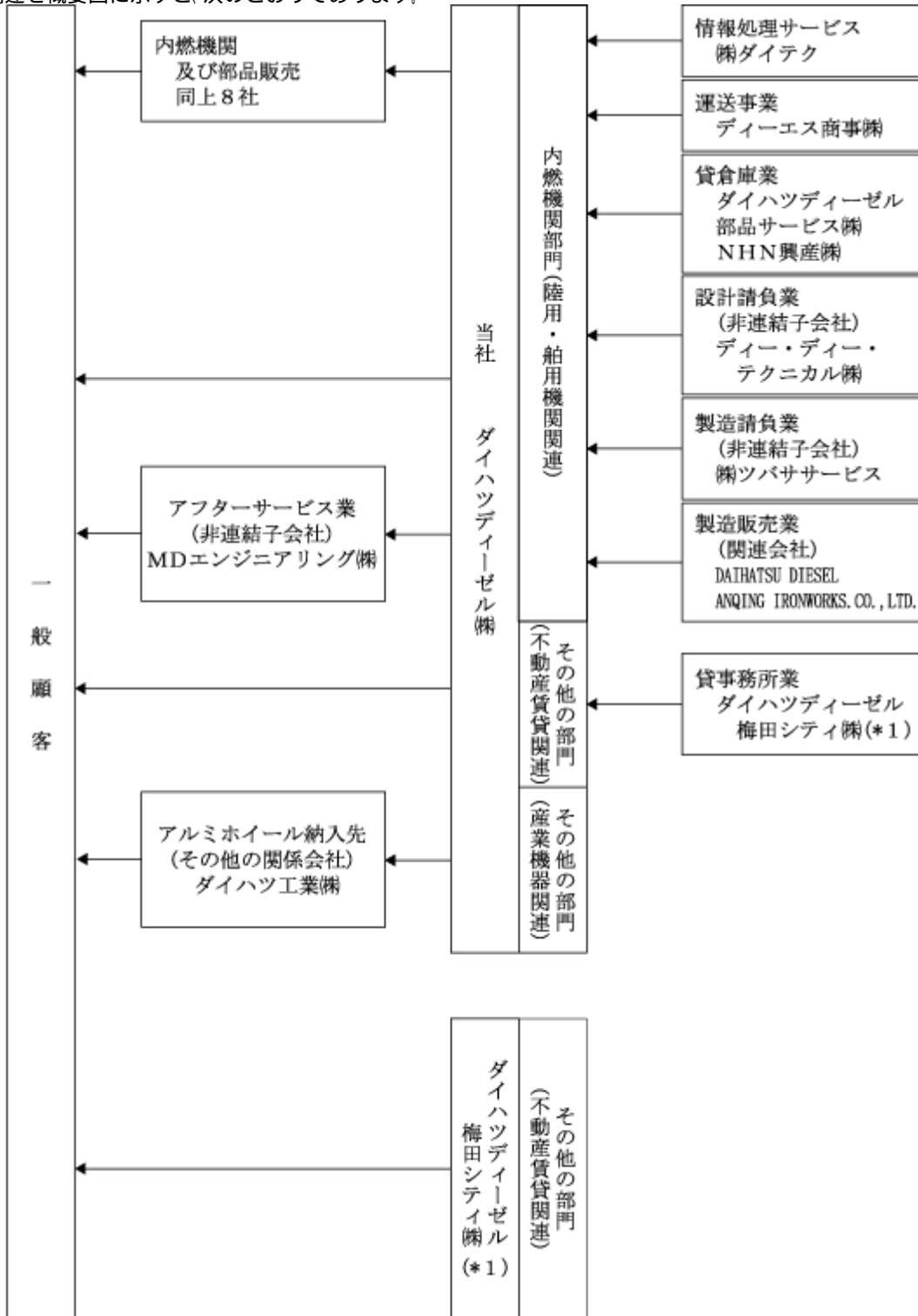
なお、産業機器事業の内、アルミホイールについては、全てその他の関係会社1社に納入しています。事業内容と当社および関係会社の当該事業に係る位置づけは、次のとおりであります。

区 分	主要製品（事業）	主要な会社
内 燃 機 関 部 門	船用ディーゼルエンジン 陸用ディーゼルエンジン ガスタービン 同上の部品の販売	当社、ダイハツディーゼル東日本(株)、ダイハツディーゼル中日本(株)、ダイハツディーゼル四国(株)、ダイハツディーゼル西日本(株) DAIHATSU DIESEL(ASIA PACIFIC) PTE.LTD. DAIHATSU DIESEL(EUROPE) LTD. DAIHATSU DIESEL(AMERICA), INC. DAIHATSU DIESEL(SHANGHAI) CO., LTD.
	情報処理サービス業 運送業 貸倉庫業 設計請負業 製造請負業 製造販売業 アフターサービス業	(株)ダイテク ディーエス商事(株) ダイハツディーゼル部品サービス(株) NHN興産(株) ディー・ディー・テクニカル(株) (株)ツバササービス DAIHATSU DIESEL ANQING IRONWORKS.CO., LTD. MDエンジニアリング(株)

その他の部門	産業機器関連	アルミホイールの販売	当社
	不動産賃貸関連	貸事務所業	当社、ダイハツディーゼル梅田シティ(株)

(注) は非連結子会社であります。
は関連会社であります。

以上の関連を概要図に示すと、次のとおりであります。



(*1) ダイハツディーゼル梅田シティ株式会社は、「梅田スカイビル」の一部を保有し、賃貸事業を行っています。

4 【関係会社の状況】

(1) 親会社

該当事項はありません。

(2) 連結子会社

会社名	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な 事業内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
DAIHATSU DIESEL (ASIA PACIFIC) PTE. LTD.	シンガポール	2,000,000 S \$	内燃機関 関連	100.0	当社製品の販売 役員の兼任 有
DAIHATSU DIESEL (EUROPE) LTD.	英国 ロンドン	50,000 STG	"	100.0	当社製品の販売 役員の兼任 無
DAIHATSU DIESEL (AMERICA) ,INC.	米国 ニューヨーク	100,000 US \$	"	100.0	当社製品の販売 役員の兼任 有
DAIHATSU DIESEL (SHANGHAI) CO.,LTD.	中国 上海	200,000 US \$	"	100.0	当社製品の販売 特定子会社に該当しております。 役員の兼任 有
ダイハツディーゼル部品サービス㈱	大阪府 茨木市	50,000	"	100.0 (26.0)	当社製品の部品流通管理 役員の兼任 有
ダイハツディーゼル東日本㈱	東京都 台東区	30,000	"	100.0 (5.0)	当社製品の販売 特定子会社に該当しております。 役員の兼任 有
ダイハツディーゼル中日本㈱	広島市 南区	10,000	"	100.0	当社製品の販売 役員の兼任 有
ダイハツディーゼル四国㈱	愛媛県 今治市	10,000	"	100.0	当社製品の販売 役員の兼任 有
ダイハツディーゼル西日本㈱	福岡市 東区	30,000	"	100.0	当社製品の販売 特定子会社に該当しております。 役員の兼任 無
㈱ダイテク	大阪市 北区	30,000	"	100.0 (50.0)	当社の情報処理及びシステム開発 役員の兼任 有
ディーエス商事㈱	大阪市 北区	10,000	"	94.0	当社製品の運搬取扱い 役員の兼任 無
NHN興産㈱	大阪府 茨木市	57,350	"	100.0	当社より資金援助を受けております。 役員の兼任 有
ダイハツディーゼル梅田シティ㈱	大阪市 北区	50,000	不動産 賃貸関連	100.0	当社より資金援助を受けております。 役員の兼任 有

(注) 1 議決権の所有割合の欄：()は間接所有割合を示し内数であります。

2 ダイハツディーゼル東日本株式会社、ダイハツディーゼル西日本株式会社及びDAIHATSU DIESEL (SHANGHAI) CO.,LTD.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

・ダイハツディーゼル東日本株式会社

(1) 売上高	7,197百万円
(2) 経常利益	259百万円
(3) 当期純利益	152百万円
(4) 純資産額	992百万円
(5) 総資産額	3,892百万円

・ダイハツディーゼル西日本株式会社

(1) 売上高	7,907百万円
(2) 経常利益	116百万円
(3) 当期純利益	55百万円
(4) 純資産額	478百万円
(5) 総資産額	3,153百万円

・DAIHATSU DIESEL (SHANGHAI)CO.,LTD.

(1) 売上高	8,335百万円
(2) 経常利益	60百万円
(3) 当期純利益	47百万円
(4) 純資産額	162百万円
(5) 総資産額	1,738百万円

(3) 持分法適用関連会社

該当事項はありません。

(4) その他の関係会社

会社名	住所	資本金 (千円)	主要な 事業内容	議決権の 被所有 割合(%)	関係内容
ダイハツ工業㈱	大阪府 池田市	28,404,346	自動車等各種車両及びその部品の製造・販売	35.28(0.11)	当社製品の納入 役員の兼任 有

(注) 1 議決権の被所有割合の欄：()は間接被所有割合を示し内数であります。
 2 有価証券報告書を提出しています。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメントの名称		従業員数(名)
内燃機関部門	船用機関関連	878 (120)
	陸用機関関連	172 (17)
その他の部門		7 (8)
全社(共通)		84 (7)
合計		1,141 (152)

(注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。
 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
903 (96)	43.8	18.8	6,162

セグメントの名称		従業員数(名)
内燃機関部門	船用機関関連	693 (73)
	陸用機関関連	120 (10)
その他の部門		6 (6)
全社(共通)		84 (7)
合計		903 (96)

(注) 1 従業員数は、就業人員数であります。
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(3) 労働組合の状況

労働組合との間に特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 企業集団の業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、新興国の旺盛な需要を背景として回復の兆しが見られたものの、急激な円高傾向の定着や原油をはじめとした資源価格上昇等の影響により厳しい状況で推移いたしました。

当社の主要な販売先である造船業界につきましては、海外を中心に新造船の商談が再開しているものの、船価の下落が顕著となる中で鋼材価格が上昇するなど、依然として不透明感の強い状況にあります。

このような企業環境下において、市場ニーズにマッチした「新商品の投入」と、「ブランドシェアの拡大」、「顧客満足度向上」を目標に掲げ、積極的な事業展開を進めてまいりました。

「新商品の投入」につきましては、新型ディーゼルエンジンとして「6DE-18」ならびに「6DE-23」を昨年11月に市場へ投入いたしました。同機関は「D-POWER FOR THE EARTH」のキャッチフレーズの下、地球に優しい環境対応型エンジンとして開発しております。IMO（国際海事機関）が2011年から適用を開始した排ガス規制であるNOx2次規制に適合し、同時に同3次規制への対応を含めた幅広いお客様ニーズに的確に応えていくことを目指しております。

「ブランドシェア拡大」につきましては、世界の造船各社に対するライセンス機関を含めたダイハツブランドエンジンの販売活動を積極的に進めております。当連結会計年度には、主力の技術提携先である中国ライセンサーとの契約を更新し、新たなライセンサーの開拓を進めてまいりました。ライセンサーとの協力関係の強化を図り、一層のブランドシェア拡大に向けて精力的な取り組みを続けてまいります。

「顧客満足度の向上」につきましては、当社製品の品質向上に徹底して取り組むとともに、世界規模でのサービスネットワークを活用したサービス活動の充実を図り、世界中のお客様に適切なサービスを提供しております。

以上の結果、当連結会計年度の連結売上高は58,108百万円（前期比8.9%減）となり、営業利益は6,232百万円（前期比15.3%増）、経常利益は6,160百万円（前期比16.0%増）、当期純利益は3,528百万円（前期比1.5%増）となりました。

当社および連結グループのセグメント別の業績は次のとおりであります。

< 内燃機関部門 >

イ) 船用機関関連

主力の発電用補機関につきましては、国内造船各社に対する販売台数を増加させることができました。しかしながら、海外造船各社向けの販売台数減少や急激な円高傾向の定着等により売上は減少いたしました。

ロ) 陸用機関関連

公共投資、民間の設備投資ともに抑制傾向が続く中ではありますが、積極的な販売活動を進めてまいりました。その結果、官庁向けを中心に販売台数、売上とも前年実績を上回りました。

従いまして、当部門の売上高は部品販売、メンテナンス工事も含めて55,790百万円、営業利益は8,524百万円となりました。

<その他の部門>

イ) 産業機器関連

前年度末をもって建築金物部門の清算が完了したことに加え、アルミホイール部門におきましても売上が減少となりました。

ロ) 不動産賃貸関連

当事業におきましては、事業環境の不透明感が強まりました結果、売上高は減少となりました。

従いまして、当部門の売上高は2,318百万円、営業利益は529百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）の増減は、営業活動によるキャッシュ・フローは9,790百万円増加し、投資活動によるキャッシュ・フローは1,442百万円の減少、財務活動によるキャッシュ・フローは1,592百万円の減少となりました。結果として、資金は6,629百万円の増加（前連結会計年度は1,564百万円の減少）となりました。

・営業活動によるキャッシュ・フロー

船用内燃機関を中心とした売上の計上により、税金等調整前当期純利益5,849百万円を確保しました。また、減価償却費計上(2,972百万円の増加)、棚卸資産の減少(1,040百万円の増加)がありました。

これにより、営業活動によるキャッシュ・フローは9,790百万円の増加（前連結会計年度は3,499百万円の増加）となりました。

・投資活動によるキャッシュ・フロー

設備投資を行ったことから有形固定資産の取得に1,841百万円を支出したことにより、投資活動によるキャッシュ・フローは1,442百万円の減少（前連結会計年度は3,133百万円の減少）となりました。

・財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の増加が1,530百万円ありましたが、長期借入金の返済による支出が1,682百万円、ファインンスリース債務の返済による支出が685百万円及び社債の償還による支出が500百万円ありました。

これにより、財務活動によるキャッシュ・フローは1,592百万円の減少（前連結会計年度は2,027百万円の減少）となりました。

(注) 本報告書の記載金額については、消費税等は含まれておりません。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	数 量	金 額	前期比
			%
	馬力	千円	
内燃機関部門			
船用機関関連	1,167,600	48,447,444	
陸用機関関連	64,703	7,342,655	
その他の部門		1,628,182	
合 計		57,418,282	

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受 注 高			受 注 残 高		
	数 量	金 額	前期比	数 量	金 額	前期比
	馬力	千円	%	馬力	千円	%
内燃機関部門						
船用機関関連	824,402	40,320,266 (22,720,359)		1,258,281	34,844,530 (15,574,835)	
陸用機関関連	155,632	8,798,744 (1,504,314)		133,214	4,042,625 (730,000)	
その他の部門		1,567,373 ()			93,802 ()	
合 計		50,686,384 (24,224,673)			38,980,958 (16,304,835)	

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
 2 ()内は輸出受注高、輸出受注残高を示し、内数であります。
 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	数 量	金 額	輸出比率	前期比
	馬力	千円	%	%
内燃機関部門				
船用機関関連	1,167,600	48,447,444 (26,580,085)	54.9	
陸用機関関連	64,703	7,342,655 (774,314)	10.5	
その他の部門 (注) 3		2,318,223 ()		
合 計		58,108,323 (27,354,400)	47.1	

- (注) 1 ()内は輸出高を示し、内数であります。
 2 主要な輸出地域及びその割合は次のとおりであります。
 東南アジア(80.7%)、欧州(11.7%)、中南米(5.9%)、北米(1.6%)、その他(0.1%)
 3 「その他の部門」には産業機器関連(1,628,182千円)、不動産賃貸関連(690,040千円)を含んでおります。
 4 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

今後の一般的景況および当社を取り巻く環境は厳しさを増していくことが予想されますが、そうした状況下で当社グループ全体として事業改革を進め、関連業界を中心とした急速なグローバル化等、市場環境の変化に適切に対応するとともに、事業領域の拡大を図ることにより、一層の収益を確保していくことが最大の課題と認識しております。さらに、本年に引き続き、2016年に強化される船舶用ディーゼルエンジンに対するNOx規制への対応など「環境対応型商品」の開発を進め、地球環境との調和を図りつつ企業として成長してまいりたいと考えております。

4 【事業等のリスク】

本項に記載した予想、予見、見込み、見通し等の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであり、将来生じる実際の結果と大きく異なる可能性もあります。

(1) 為替変動リスクについて

当社グループでは、製品および関連する部品やサービスの一部につき、我が国以外の各地域において販売または仕入をしており、円貨のほかに米ドルやユーロ及びその他の現地通貨建てにより、これらの取引をおこなうことがあります。当社グループでは、為替予約等により将来の売上回収時および支払時においての為替変動による円貨での売上・仕入増減リスクをヘッジしている部分もありますが、海外連結子会社の一部では円貨での販売もおこなっているため、決算時にその売掛債権について、決算基準通貨の為替変動による為替差損益が発生し、業績および財務状況が影響を受ける可能性があります。

(2) キャッシュ・フローについて

当社グループは売上高58,108百万円に対し、14,356百万円の有利子負債（リース債務を除く）を有しております。このため、キャッシュ・フロー改善活動を強化し、在庫削減や取引条件の改善等を通じて財務体質の強化に取り組んでおりますが、資金調達を間接金融に依存しているため、金融情勢の変化によっては、キャッシュ・フローに影響を与える可能性があります。

(3) 一部調達先の持つ技術等への依存について

当社グループでは機関の構成部品の多くを社外調達に依存しており、主要な部品の一部には特定の高度な技術を有した供給元に依存しているものがあります。これらについて、供給元の状況によっては調達が不安定になる可能性があります。また、当社グループでは国内での廉価調達や中国等での新たな調達先模索など、継続的に調達コストの低減に取り組んでおりますが、特定材料の値上がり等によっては、コスト低減が順調に進まない可能性があります。

(4) 法的規制等について

当社主要製品であるディーゼル機関に対し、環境負荷低減対応についての規制が厳しくなっております。陸用機関の大気汚染防止法だけでなく、船用機関におきましても海洋汚染防止条約に基づく排ガス規制が一段と厳しくなる見込みであり、これらの規制を満足する製品開発に努めておりますが、開発時期に遅れが生じた場合は、当社製品の市場におけるシェアの確保・拡大方針に影響を与える可能性があります。

(5) 売掛債権回収リスクについて

当社グループでは、取引先に対して売掛債権を有しております。そのため、金融情勢の変化や景気の不透明さが続く中、販売取引先等管理委員会を設置し、与信先の業況を常に充分注意するなど不良債権や貸倒損失の発生を防ぐ対策をしております。しかし、市場環境の急激な変化等により、それが予期または回避できない場合には回収リスクが顕在化する可能性があります。

(6) 自然災害リスクについて

当社グループの主要製品であるディーゼル機関を生産する工場は、滋賀県守山市の守山工場1カ所に集中していますので、耐震診断に着手していますが、巨大地震が発生した場合に生産活動が阻害される可能性があります。

(7) 海外リスクについて

当社グループが最も影響を受ける海運・造船市場の景況は、活発な中国経済に負うところが大きく、想定外の事情で中国の造船業の成長が止まり、中国ライセンスの機関生産量が急減した場合、中国製ライセンス機関と併せてダイハツディーゼルブランド機関のシェア拡大を目指す中期構想に齟齬が生じる可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

契約の種類	契約会社名	相手先	契約の内容	契約期間
技術供与	ダイハツディーゼル株式会社	安慶中船柴油機有限公司 (中国)	内燃機関一部機種の製造および販売権の供与	昭和57年1月9日から継続中。 (平成22年12月15日から平成32年12月14日まで)
技術供与	ダイハツディーゼル株式会社	陝西柴油機重工有限公司 (同上)	同上	昭和57年1月9日から継続中。 (平成22年12月15日から平成32年12月14日まで)
技術開発	ダイハツディーゼル株式会社	三井造船株式会社 (日本)	ガスエンジンの研究・開発	平成16年10月1日から継続中。 (平成22年10月1日から平成23年9月30日まで)

6 【研究開発活動】

(1) 研究開発活動の概要

当社グループの研究開発活動は、新型ディーゼル機関の開発を進めるとともに、電子制御などの低NOx省エネルギー技術の開発を継続的に進めています。

ガスエンジンについては、当社独自機関の開発を継続的に進めるとともに、三井造船株式会社との大型ガスエンジン機関の共同研究開発を継続的に進めています。

ガスタービンについては、既存機種の性能向上のための開発を進めております。

当連結会計年度における研究開発費は、1,444百万円であります。

(2) 研究開発内容及び成果

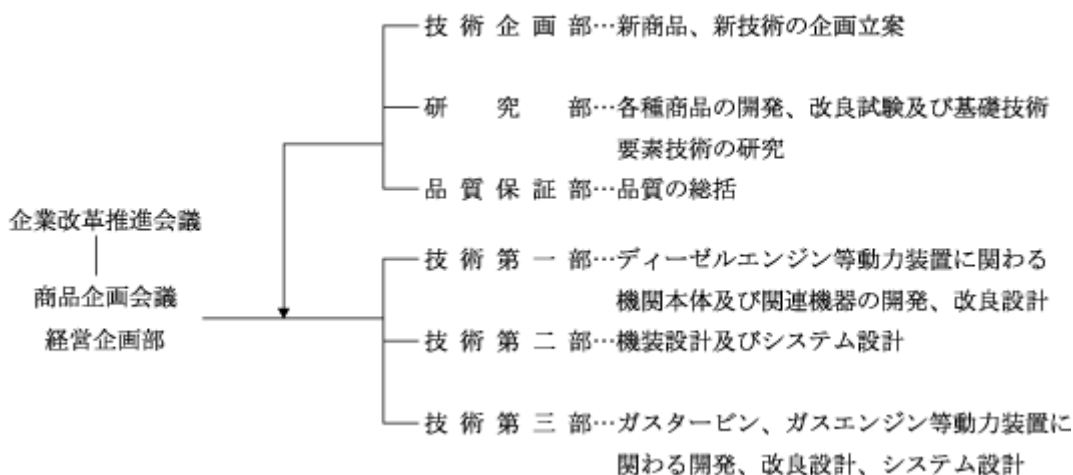
・ 内燃機関部門

当部門に係る研究開発費は1,444百万円であります。

研究開発課題	研究期間	具体的な内容	成果
1 ディーゼル機関			
新型機関の開発	継続実施	社会や環境にやさしい新概念に基づく新型ディーゼル機関シリーズの開発を進めました。	商品ラインアップとして登録済み。
燃焼改善	継続実施	法規制の強化を見越した環境低負荷技術の向上、信頼性、耐久性の向上、燃費の向上、等各種の要素試験を行いました。	現行機種の改良改善
FEM、CFD解析	継続実施	コンピュータによる各種解析を行い、性能、品質の向上、安定の確認、新型機関の小型、軽量化及び開発期間の短縮を行いました。	新型機関の小型、軽量化及び開発期間の短縮。
2 ガスエンジン機関			
新型機関の開発	継続実施	三井造船株式会社と大型ガスエンジン機関の共同開発を行いました。	商品ラインアップとして登録済み。
3 ガスタービン機関			
ポンプ駆動用・立軸ガスタービン	継続実施	更なる販売拡大のため、電子制御化、性能改善等の継続研究、商品化開発を行いました。	現行機種の改良改善

(3) 研究開発活動の特徴等(研究開発体制、研究開発課題等)

◎内燃機関関連



7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態についての分析

当連結会計年度末における資産の部では、売上高の減少にともない受取手形及び売掛金が前連結会計年度末に比べ、805百万円減少しましたが、海外債権の減少により売掛債権回転日数は、前連結会計年度末では96.2日でしたが、当連結会計年度末は106.4日となっております。たな卸資産は、前連結会計年度末に比べ、1,042百万円減少し、たな卸資産回転日数は、前連結会計年度末では68.1日に対し、当連結会計年度末は61.5日となっております。有形固定資産は、前連結会計年度末に比べ、1,549百万円減少の20,476百万円となりました。資産の部合計については、前連結会計年度末に比べ、現金及び預金が6,174百万円増加したことにより、2,549百万円増加し、66,557百万円となりました。

一方、負債の部では、支払手形及び買掛金が前連結会計年度末に比べ、107百万円増加しましたが、買掛債務回転日数は、前連結会計年度末では84.2日に対し、当連結会計年度末は、78.5日となっております。また、短期借入金の残高は、3,138百万円増加して10,371百万円、長期借入金の残高は、3,291百万円減少して3,985百万円となり、社債については、500百万円の償還により全ての社債償還が完了となりました。当連結会計年度末における売上高有利子負債比率（リース債務を除く）は、前連結会計年度末から1.2ポイント増加して24.7%となっております。負債の部合計では、前連結会計年度末に比べ、596百万円減少し、44,285百万円となりました。

(2) 当期の経営成績の分析

為替変動の影響について

当連結会計年度の為替レート変動により、売上高は前連結会計年度に比べ477百万円減少し、営業利益は169百万円増加したと試算されます。この試算は当連結会計年度の外貨建て売上高、売上原価、販売費および一般管理費を、前連結会計年度の換算レートで再計算したものであり、為替変動に対応した財務政策等の影響は考慮されておりません。

当期の経営成績について

主力の内燃機関関連事業において、海外造船各社向けの販売台数が減少したことや円高傾向が定着したこと等により、当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度に比べ8.9%減収となる58,108百万円となりました。

当連結会計年度の売上原価は、売上高の減少に伴い、前連結会計年度の47,462百万円に比べ6,061百万円減少し、41,401百万円となりました。

なお、売上高原価率は、前連結会計年度から3.2ポイント低下して71.2%となっております。

また、売上高の減少に伴い、販売費及び一般管理費は、前連結会計年度に比べ440百万円減少し、10,474百万円となりました。売上高販管費率は、前連結会計年度から0.9ポイント上昇して18.0%となっております。

この結果、営業利益は、前連結会計年度の5,405百万円から15.3%増益の6,232百万円となり、売上高営業利益率は、前連結会計年度から2.3ポイント上昇して10.7%となりました。

経常利益は、前連結会計年度の5,312百万円から16.0%の増益となる6,160百万円となりました。売上高経常利益率は、前連結会計年度から2.3ポイント上昇して10.6%となっております。

当期純利益は、前連結会計年度の3,475百万円から53百万円の増益となる3,528百万円となりました。これは、売上高が減少したことによります。なお、1株当たり当期純利益は、前連結会計年度の109.15円に対し、当連結会計年度は110.83円となりました。

(3) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ6,291百万円増加し、9,790百万円の収入となりました。この増加は、環境変化等により、前連結会計年度に比べ、たな卸資産減少に伴う収入が2,125百万円減少したものの、同仕入債務が5,043百万円増加、また、売上債権の回収が進み1,505百万円増加したこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ1,690百万円減少し、1,442百万円の支出となりました。この減少は、製造設備増強に伴う固定資産の取得による支出が前連結会計年度に比べ1,504百万円減少し、1,841百万円になったことに加え、同定期預金の払戻による収入および定期預金の預入による支出が177百万円減少したこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ434百万円減少の1,592百万円となりました。この減少は、前連結会計年度に比べ短期借入金が増加しましたが、事業資金の長期借入金の返済による支出1,682百万円および同社債の償還による支出500百万円により減少したこと等によるものです。

当社グループは現在、運転資金および製造設備増強に伴う資金につきましては、自己資金にて賄っております。また、当連結会計年度において、当社グループは利益確保に努め、併せて在庫の適正化や取引条件の改善等を通じて財務体質の強化に取り組んでおります。

以上の結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ6,629百万円増加の12,265百万円となりました。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、製品のコスト低減、品質の安定、製造工程の合理化を図るための設備増強を目的とした設備投資を継続的に実施しております。

当連結会計年度における設備投資の総額は924百万円であり、セグメントごとの設備投資は次のとおりであります。

(1) 内燃機関部門

当連結会計年度の主な設備投資は、設備増強及び加工合理化のための端面孔マシニングセンターの新設や更新等を中心に総額887百万円の投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

(2) その他の部門

産業機器関連における当連結会計年度の主な設備投資は、ライフ試験機等で総額24百万円の投資を実施いたしました。

また、不動産賃貸関連における当連結会計年度の主な設備投資は、火災報知設備の更新等に総額12百万円の投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

平成23年3月31日現在における各事業所の設備、投下資本並びに従業員の配置状況は次のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
		建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積：㎡)	その他	投下資本 合計	
守山第一工場 (滋賀県守山市)	生産設備 (内燃機関)	1,923,002	5,517,821	1,780,871 (116,957)	498,772	9,720,468	558 (75)
守山第二工場 (滋賀県守山市)	生産設備 (内燃機関)	525,698	673,524	609,993 (34,779)	236,073	2,045,290	89

- (注) 1 投下資本の金額は有形固定資産の帳簿価額であり、建設仮勘定は含んでおりません。
 2 寮・福利厚生施設は守山第一工場(内燃機関部門)に含めております。
 3 従業員数は就業人員であります。
 4 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 5 資産については、事業セグメントに配分しておりません。
 6 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 子会社

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積：㎡)	その他	投下資本 合計	
NHN興産(株)	本社 (大阪府 茨木市)	賃貸用 不動産	35,091	2,501	1,381,533 (10,176)	241	1,419,367	7 (4)
ダイハツ ディーゼル 梅田シティ(株)	本社 (大阪府 北区)	賃貸用 ビル	4,679,011	12,789	8,063 (4,518)	9,828	4,709,693	1

- (注) 1 投下資本の金額は有形固定資産の帳簿価額であり、建設仮勘定は含んでおりません。
 2 従業員数は就業人員であります。
 3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 4 資産については、事業セグメントに配分しておりません。
 5 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

平成23年3月31日現在の設備計画は次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	予算金額 (千円)	既支払額 (千円)	今後の 所要金額 (千円)	着手年月	完成予定 年月
提出会社	守山第一・ 第二工場 (滋賀県守 山市)	内燃機関製造 設備	1,190,000		1,190,000	平成23年4月	平成24年3月

- (注) 1 合理化のための設備投資であり、生産能力の著しい増加はありません。
 2 資金調達方法については、自己資金を予定しております。
 3 経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。
 4 資産については、事業セグメントに配分しておりません。
 5 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数(株) (平成23年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年6月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	31,850,000	31,850,000	大阪証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は 1,000株で あります。
計	31,850,000	31,850,000		

(注) 昭和41年5月2日会社設立資本金10億円のうち現物出資額548,900千円があります。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年3月14日 (注)1	3,000	31,400	882,000	2,302,000	882,000	2,018,563
平成19年3月27日 (注)2	450	31,850	132,300	2,434,300	132,300	2,150,863

(注) 1 一般募集 発行価格 620円、発行価額 588円、資本組入額 294円

2 第三者割当 発行価格 620円、発行価額 588円、資本組入額 294円
 主な割当先 三菱UFJ証券株式会社

(6) 【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		16	22	68	59	3	1,881	2,049	
所有株式数(単元)		6,374	403	15,044	4,414	5	5,565	31,805	45,000
所有株式数の割合(%)		20.04	1.27	47.30	13.87	0.02	17.50	100.00	

(注) 1 自己株式12,690株は、「個人その他」欄に12単元、「単元未満株式の状況」欄に690株含まれております。
 2 「その他の法人」欄には、証券保管振替機構名義の株式が1単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ダイハツ工業株式会社	大阪府池田市ダイハツ町1番1号	11,181	35.10
積水ハウス株式会社	大阪市北区大淀中1丁目1番88号	2,000	6.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,739	5.45
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	740	2.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	732	2.29
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川2丁目27番2号	640	2.00
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2番1号	590	1.85
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク (常任代理人 モルガン・スタンレーMUFJ証券株式会社)	1585 BROADWAY NEW YORK, NY 10036, U.S.A (東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号)	527	1.65
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木6丁目10番1号)	501	1.57
ジェービーモルガンチェースバンク385166 (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部)	125 LONDON WALL, LONDON, EC2Y5AJ, UNITED KINGDOM (東京都中央区月島4丁目16番13号)	468	1.46
計		19,119	60.02

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから平成23年1月17日付で提出された変更報告書により、平成23年1月10日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末の実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
 なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	740	2.32
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	725	2.28
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	40	0.13
エム・ユー投資顧問株式会社	東京都中央区日本橋室町三丁目2番15号	194	0.61
計		1,699	5.33

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 12,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,793,000	31,793	
単元未満株式	普通株式 45,000		
発行済株式総数	31,850,000		
総株主の議決権		31,793	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権2個)含まれております。

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) ダイハツディーゼル(株)	大阪市北区大淀中1丁目1番30号	12,000		12,000	0.04
計		12,000		12,000	0.04

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	627	205
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成23年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	12,690		12,690	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成23年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび買増請求による売渡しに係る株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社の配当政策の基本的な考え方は、将来の企業体質の強化及び安定的な利益確保のため内部留保を充実するとともに、株主各位への継続した配当を実施することにあります。

当社の剰余金の配当は、財務内容、利益水準、配当性向等を総合的に勘案して、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。また、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会です。なお、定款において「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定めております。

当事業年度の期末配当につきましては、1株につき8円の配当を実施しました。

また内部留保金は、研究開発、設備投資等の資金需要に備える所存であり、これは将来の利益に貢献し株主各位への安定的な配当に寄与していくものと考えております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成23年6月29日 定時株主総会	254	8

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第47期	第48期	第49期	第50期	第51期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高(円)	1,114	2,100	1,510	680	479
最低(円)	550	678	325	299	242

(注) 最高・最低株価は株式会社大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高(円)	295	304	320	361	479	455
最低(円)	250	242	285	303	355	250

(注) 最高・最低株価は株式会社大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長		古川 與四郎	昭和20年8月31日生	昭和43年4月 当社入社 平成8年3月 技術第二部長 " 11年6月 取締役 " 15年6月 常務取締役 " 17年6月 専務取締役 " 19年6月 代表取締役副社長 " 20年6月 代表取締役社長 " 23年6月 代表取締役会長(現職) (重要な兼職の状況) " 20年6月 ダイハツディーゼル梅田シテイ ㈱代表取締役社長(現職)	(注)2	24,000
代表取締役 社長		原田 猛	昭和25年2月23日生	昭和48年5月 当社入社 平成16年3月 船用事業部副事業部長 " 19年6月 取締役 " 21年6月 常務取締役 " 23年6月 代表取締役社長(現職)	同上	11,000
専務取締役	技術提携推進 室・アルミホ イール部・購 買部 統括	岩辺 裕 昭	昭和27年2月9日生	昭和49年4月 ダイハツ自動車販売㈱入社 平成15年6月 ダイハツ工業㈱取締役 " 18年6月 同社執行役員 " 19年6月 同社取締役 " 21年6月 当社専務取締役(現職)	同上	16,000
専務取締役	技術企画部長 兼研究部・技 術第一部・技 術第二部・技 術第三部・品 質保証部 統 括	岡野 幸 雄	昭和24年1月31日生	昭和46年4月 当社入社 平成14年3月 技術第一部長 " 15年6月 取締役 " 19年6月 常務取締役 " 23年6月 専務取締役(現職)	同上	15,000
常務取締役	C S推進事 業部長兼 グローバル 部品部長兼 販売統括部 ・環境エネ ルギー事業 部 管掌	宮田 博	昭和23年7月12日生	昭和47年4月 当社入社 平成17年3月 守山工場長 " 17年6月 取締役 " 20年6月 常務取締役(現職)	同上	12,000
常務取締役	監査部長兼 経営企画部 ・総務部・ 情報システ ム部・人事 部・経理部 管掌	中村 健	昭和24年2月26日生	昭和49年4月 当社入社 平成16年6月 経営企画室長 平成19年6月 取締役 " 20年6月 常務取締役(現職) (重要な兼職の状況) " 22年5月 ㈱ダイテク 代表取締役社長(現職)	同上	12,000
常務取締役	守山事業所 長兼守山工 場長兼生産 改革推進室 長	中島 亮太郎	昭和26年12月21日生	昭和50年4月 当社入社 平成20年3月 守山工場長 " 20年6月 取締役 " 22年6月 常務取締役(現職)	同上	11,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	任期	所有株式数 (株)
常務取締役	技術企画部 ・研究部・技 術第一部 ・技術第二部 ・技術第三部 ・品質保証部 管掌	岸本 吉史	昭和32年1月20日生	昭和55年4月 ダイハツ工業㈱入社	(注) 2	11,000
				平成20年6月 同社執行役員		
				" 23年6月 当社常務取締役(現職)		
取締役	グローバル サービス部 長	佐々木 綱治	昭和23年7月6日生	昭和48年4月 当社入社 平成15年7月 C S 推進事業部長 " 17年6月 取締役(現職)	同上	12,000
取締役	技術第三 部長	岡内 崇	昭和26年5月15日生	昭和50年10月 当社入社 平成20年3月 経営企画室副室長 " 20年6月 取締役(現職)	同上	2,000
取締役	技術第一 部長	筏 継雄	昭和25年4月13日生	昭和48年10月 当社入社 平成19年3月 技術第一部長(現職) " 21年6月 取締役(現職) (重要な兼職の状況) " 21年5月 ディー・ディール・テクニカル㈱ 代表取締役社長(現職)	同上	6,000
取締役	経理部長	合田 修	昭和29年11月24日生	昭和52年4月 当社入社 平成16年6月 経理部長(現職) " 22年6月 取締役(現職)	同上	11,000
取締役	船用事業部長 兼中国室長兼 東京支社長	山下 正文	昭和28年3月22日生	昭和46年3月 当社入社 平成15年3月 船用第二営業部長 " 23年6月 取締役(現職)	同上	6,000
常勤監査役		石橋 貞彦	昭和22年1月19日生	昭和44年4月 当社入社 平成15年3月 経理部長 " 16年6月 常勤監査役(現職)	(注) 4	16,000
常勤監査役		山田 秀樹	昭和25年11月12日生	昭和48年4月 当社入社 平成22年3月 購買部参事 " 22年6月 常勤監査役(現職)	(注) 3	2,000
監査役		守田 邦彦	昭和27年1月30日生	昭和50年4月 ダイハツ工業㈱入社 平成16年6月 同社取締役 " 18年6月 同社執行役員 " 19年6月 同社常勤監査役(現職)	(注) 1 (注) 3	0
				" 18年6月 当社監査役(現職)		
監査役		高橋 昌弘	昭和28年11月27日生	昭和51年4月 ダイハツ自動車販売㈱入社 平成17年6月 ダイハツ工業㈱取締役 " 18年6月 同社執行役員(現職) " 20年6月 同社取締役(現職)	(注) 1 (注) 5	0
				" 19年6月 当社監査役(現職)		
監査役		杉本 満司	昭和22年10月2日生	昭和45年4月 後藤鍛工㈱ (現 ㈱メタルアート)入社 平成17年6月 同社取締役(現職) " 19年6月 同社製造技術部長兼 品質保証部長(現職)	(注) 1 (注) 3	0
				" 22年6月 当社監査役(現職)		
計18名						167,000

- (注) 1 監査役 守田邦彦、高橋昌弘、杉本満司は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 2 取締役全員の任期は、平成23年3月期に関する定時株主総会終結の時から、平成24年3月期に関する定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査役 守田邦彦、杉本満司、山田秀樹の任期は、平成22年3月期に関する定時株主総会終結の時から、平成26年3月期に関する定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役 石橋貞彦の任期は、平成20年3月期に関する定時株主総会終結の時から、平成24年3月期に関する定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役 高橋昌弘の任期は、平成23年3月期に関する定時株主総会終結の時から、平成27年3月期に関する定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

1. 会社の機関の内容及び内部統制システムの状況

(1) 会社のコーポレート・ガバナンス体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は監査役制度を採用しております。監査役は5名を選任しており、内3名は社外監査役として選任し、監査を実施しておりますので、経営監査機能の客観性、中立性が十分に機能する体制が整っているため、社外取締役を選任しておりません。また、内部統制委員会を設置し、内部統制のシステムの整備・改善を図っております。

取締役会は法令で定められた事項や経営に関する重要事項を審議・決定すると同時に、各取締役の業務執行につき相互の監督を行っており、当事業年度におきましては14回開催しております。代表取締役が経営状況を迅速・的確に把握し、経営の意思決定を容易に行えるよう、役付役員による経営会議を開催しております。また、取締役の職務執行に対しては監査役による適宜・適切な監査に基づき必要な意見開示を行います。

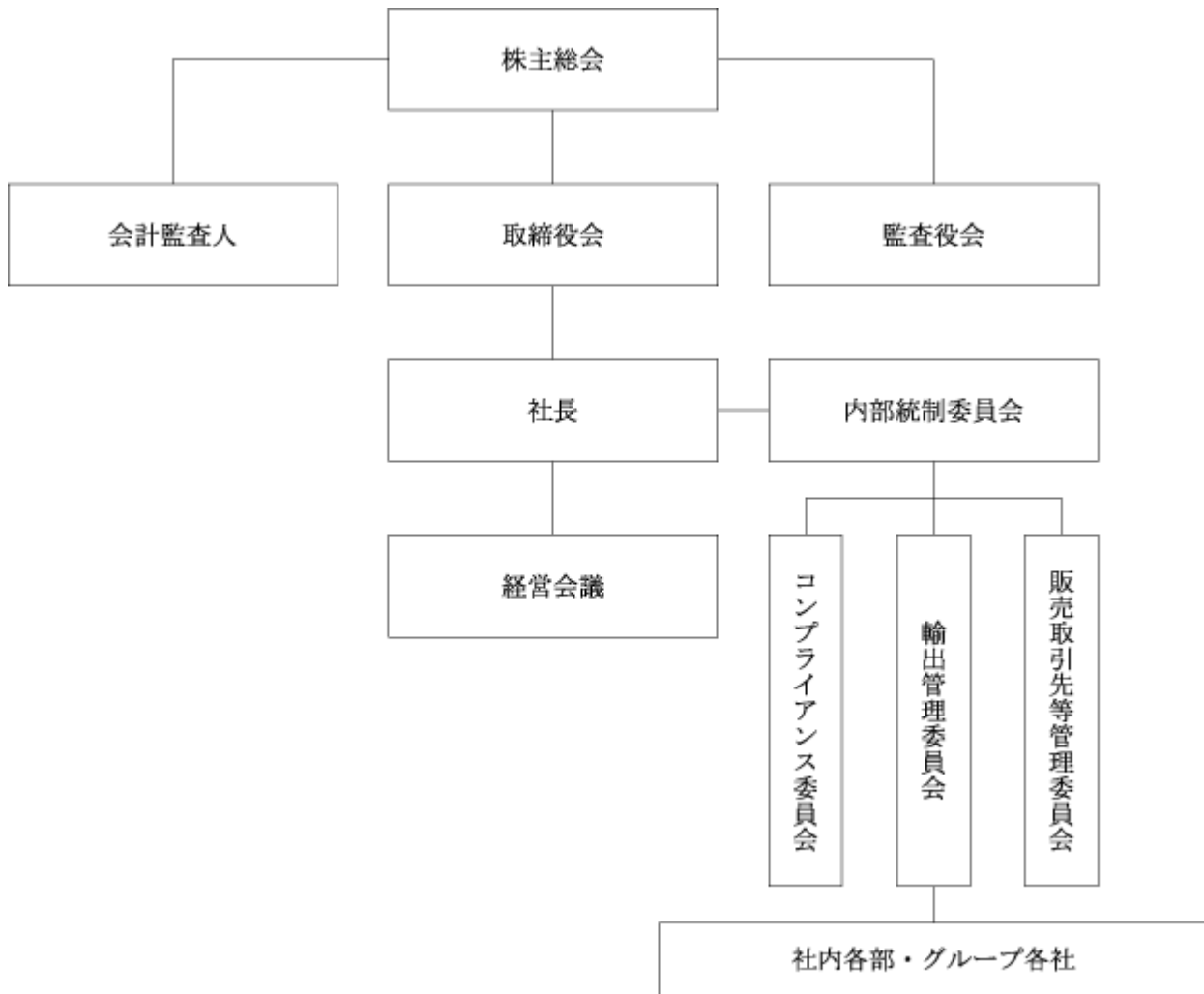
監査役会は、年初に各監査役の協議により年度の重点監査方針及び計画を決め、役割分担をして、おおむね毎月取締役会当日に監査役会を開催して各監査役の種々の視点・角度からの報告・協議を行っております。なお、社外監査役にはそれぞれの立場と経歴、知識、技能、経験を生かし、また外からの視点で適切なご意見をいただいております。

内部監査部門(監査部2名)の情報を適切に入手することが、監査役の監査が十分な情報に基づいて行うために重要なことであり、監査部と常勤監査役は毎月の定例会合を行い、緊密な連帯・意思疎通ができる体制を作っております。

さらに、毎月の社外監査役出席の監査役会に定例会合の内容等を報告しております。

なお当社は、会社法第427条第1項に基づき、社外監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

(2) 業務執行・監査の仕組み、内部統制の仕組み



(3) 内部統制システムの整備の状況

当社は、会社法及び会社法施行規則に基づき、以下の体制を整備しております。

1) 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

当社は「社会を豊かにする価値を提供し、人々との共生を願う」企業理念のもとに、「倫理行動基準」および「倫理行動指針」を制定して企業人として取るべき行動規範を示しており、取締役をはじめ全社員がこれを遵守することにより、健全な内部統制環境の醸成に努めます。

業務執行に当たっては、取締役会のほか、様々な会議体で総合的に検討したうえで意思決定が行われますが、これらの会議体への付議事項は規定により定め、適切に運営します。

法令等の遵守等を目的として設置している「コンプライアンス委員会」の機能を強化、拡充した「内部統制委員会」を設置し、内部統制の整備および監督を進めます。

コンプライアンス意識の向上のため、階層別教育や職場研修を継続的に実施します。

法令上疑義のある行為等コンプライアンスに係る問題に関しては、監査部門を通報先とする相談窓口（「DDホットライン」）を設置し、適切に運営します。

2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報については、法令および文書管理規定、機密管理規定等の社内規定に従って、各担当部門が適切に保存および管理を行います。取締役および監査役は、常時、これらの情報を閲覧できるものとします。

3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

コンプライアンス、安全、環境、品質、財務などのリスクについては、それぞれの担当部門または内部統制委員会および各種委員会が、それぞれの機能におけるリスクを把握、分析、評価した上で適切な対策を実施するとともに、必要に応じ規則やガイドラインの制定やマニュアルの作成等を行い、管理します。

4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

定例の取締役会を月1回開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を審議、決定すると同時に、各取締役の業務執行状況の監督を行います。また、取締役会の機能を強化し経営効率を向上させるため、全役付取締役により構成する経営会議を定期的に開催し、事業運営に関わる重要事項の意思決定を行います。

将来の事業環境を踏まえ中期経営計画を策定し、これを具体化するため各事業年度の年度方針と目標を設定します。担当取締役は、各部門方針と目標、権限分配を含めた効率的な達成方法を定め、推進します。取締役社長は定期的に進捗状況をレビューし、必要に応じ改善を促します。

5) 当会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社グループ各社に関しては、関係会社管理規定に基づき、関係会社管理制度を通じてこれらの内部統制活動の徹底を図ります。

グループ各社に内部統制推進責任者および担当者を置くとともに、内部統制委員会がグループ全体の内部統制を統括、推進する体制とします。

6) 監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制ならびにその使用人の取締役からの独立性に関する事項

現在、監査役の職務を補助すべき社員はいませんが、監査役会から要求があった場合には、原則として監査部門から人選することとし、監査役は該当者に対し必要な事項を命令することができることとします。また、その命令に関しては、取締役等の指揮命令を受けないものとし、該当者の人事異動および人事考課については監査役と取締役が協議することとします。

- 7) 取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他監査役への報告に関する体制
取締役は、主な業務執行について適宜適切に監査役に報告するとともに、当社および当社グループに著しい損害や重大な影響を及ぼす重要な事実を把握したときは、直ちに監査役に報告します。
取締役および使用人は、監査役の求めに応じ、定期的にまた随時に、監査役に業務執行状況を報告します。
- 8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
代表取締役は、監査役と定期的に会合を持ち、監査上の重要課題について意見交換を行います。
主要な取締役の会議体や内部統制、コンプライアンスに関わる委員会等には、監査役の出席を得ることとします。
監査役による重要書類の閲覧や会計監査人との定期的あるいは随時の会合を通じて、監査の実効性を期します。

(4) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方および行動基準

1) 反社会的勢力への対処

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体に対しては、毅然とした対応を行います。

2) 反社会的行為の排除

- ・ 反社会的な団体およびそれらの団体に関係する取引や寄付金等の利益供与行為をはじめ一切の付き合いを行いません。
- ・ 市民生活の秩序や安全に脅威を与える団体（暴力団、総会屋等）および彼らが所属・経営あるいは関係する企業との取引は一切行いません。彼らから取引の要請があった場合には断固として断ります。
- ・ 暴力団や総会屋等と面談するときは、決して一人では会いません。二人以上で面談し、発言内容に留意して言葉じりを取られないようにするとともに、相手の要求は明確に断り、曖昧な返答や期待を持たせるような断り方はしません。
- ・ 暴力団や総会屋等は、巧妙に合理的な団体を装って近づき取引や金品の要求をしてくるため、常にそうした相手の動きに対し関心を持つとともに、当社の取引先がそういった非合法的団体と関わりを持っていないかについても注意を払い情報の収集に努めます。

(5) 内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査は、独立した内部監査部門である監査部(専任2名)を設置し、内部監査基準を定めた上で、グループ内監査への取り組みを強化しております。常勤監査役は2名で、うち監査役石橋貞彦氏は当社経理部長を経験しております。

監査役は取締役会及び経営会議等への出席、各事業所への往査等を通じた経営状況の把握、取締役の経営判断及び業務執行について主に適法性の観点から厳正な監査を行っております。

また、会計監査は、新日本有限責任監査法人との間で監査契約を締結し、期中の会計処理及び決算内容について会計監査を実施しており、監査役と監査部及び会計監査人とは、定期的な連絡会議の開催により情報、意見の交換を行うなど連携を深め、監査の実効性と効率性の向上を図っております。

(6) 会計監査の状況

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
業務執行社員	山本操司	新日本有限責任監査法人
	豊原弘行	

継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

同監査法人はすでに自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 6名、その他 11名であります。

(7) 社外取締役及び社外監査役と提出会社との関係

社外取締役は選任しておりません。また、社外監査役として3名を選任しております。

社外監査役の内2名は当社の関係会社の取締役、常勤監査役ですが、当社との間には取引関係その他利害関係はありません。また、1名は他社の取締役であり、同様に当社との間には取引関係その他利害関係はありません。

なお、杉本満司氏は、大阪証券取引所企業行動規範に規定の独立役員であります。

2. コンプライアンス対応及びリスク管理体制

当社は、株主はもとより、顧客、取引先、従業員、地域住民といった当社に関わる皆様にとって大きな存在価値を認めていただける企業グループとなるため、コーポレート・ガバナンスを正しく機能させることが重要と考えております。

このため、グループ経営の現状を効率的に把握するとともに、経営計画を遅滞なく推進させるように努めております。

また、適法で効率よい経営の推進を妨げる可能性のある法令違反に限らず、安全・環境・品質・財務などの様々なリスクを監視し、予防と発生後の迅速な対応が行えるよう、監査部や内部統制委員会、コンプライアンス委員会などを設置してリスク管理を行っております。

なお、当社は顧問弁護士の法務に関わるアドバイスを適宜受けております。

3. 取締役及び監査役の報酬等の内容

区分	支給人員	報酬額
取締役	14名	365百万円
監査役	3名	40百万円
社外監査役	4名	1百万円
計	21名	408百万円

- (注) 1 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
- 2 株主総会決議による報酬限度額(会社法第361条第1項第1号)は、取締役(使用人兼務取締役の使用人給与相当額および下記第4項の役員賞与ならびに第5項の退職慰労金は含んでおりません。)年額250百万円、監査役年額50百万円であります。
- 3 上記の支給人員および報酬等の額には、平成22年6月29日開催の第50回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名および監査役2名を含んでおります。なお、事業年度末現在の人数は、取締役13名および監査役5名であります。
- 4 上記の報酬等の額には、当事業年度中に役員賞与として引当金を計上した次の金額を含んでおります。
- | | | |
|-------|-----|-------|
| 取締役 | 13名 | 61百万円 |
| 監査役 | 2名 | 2百万円 |
| 社外監査役 | 3名 | 1百万円 |
- 5 上記の報酬等の額には、当事業年度中に退職慰労金として引当金を計上した次の金額を含んでおります。
- | | | |
|-------|-----|-------|
| 取締役 | 14名 | 71百万円 |
| 監査役 | 3名 | 5百万円 |
| 社外監査役 | 4名 | 0百万円 |
- 6 上記の報酬等の額には、平成22年6月29日開催の第50回定時株主総会決議に基づき、役員退職慰労金として支給した次の金額を含んでおります。
- | | | |
|-------|----|------|
| 取締役 | 1名 | 1百万円 |
| 監査役 | 1名 | 0百万円 |
| 社外監査役 | 1名 | 0百万円 |
- なお、上記各金額は、過年度の事業報告において記載した役員退職慰労引当金の繰入額(取締役19百万円、監査役6百万円、社外監査役1百万円)を除いております。
- 7 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等
 報酬額等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

4. 役員報酬等の決定方針

役員報酬については、各人の役位、在勤年数などをもとにして決定することとし、その基準ベースとして、当期の業績および業績への各人の貢献度など諸般の事情を勘案して、株主総会で決定された総額の範囲内において決定しております。

5. 定款規定の内容

(1) 取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款に定めております。

(2) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

(3) 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項及びその理由

自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式の取得をすることができる旨を定款に定めております。これは、経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行を可能にするものであります。

中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするものであります。

取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役(取締役であったものも含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議により免除することができる旨を定款に定めております。これは、職務の遂行にあたって期待される役割を十分に発揮できるようにするものであります。

監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる監査役(監査役であったものも含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議により免除することができる旨を定款に定めております。これは、職務の遂行にあたって期待される役割を十分に発揮できるようにするものであります。

(4) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法309条2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

6. 株式保有の状況

(1) 純投資目的以外の目的の投資株式の銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

31銘柄及び586百万円を保有しております。

(2) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	222,920	109	資金調達安定化のため
三井造船(株)	421,000	98	関係強化を通じた共同事業の推進のため
積水ハウス(株)	78,110	72	"
(株)滋賀銀行	68,502	40	資金調達安定化のため
(株)名村造船所	54,950	26	取引関係維持のため
(株)りそなホールディングス	22,137	26	資金調達安定化のため
日本電信電話(株)	6,630	26	取引関係維持のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	8,057	24	資金調達安定化のため
内海造船(株)	53,666	17	取引関係維持のため
西日本旅客鉄道(株)	48	15	"

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	222,920	85	資金調達安定化のため
三井造船(株)	421,000	83	関係強化を通じた共同 事業の推進のため
積水ハウス(株)	78,110	60	"
(株)滋賀銀行	68,502	29	資金調達安定化のため
日本電信電話(株)	6,630	24	取引関係維持のため
(株)名村造船所	54,950	22	"
(株)三井住友フィナンシャルグループ	8,057	20	資金調達安定化のため
内海造船(株)	53,666	20	取引関係維持のため
西日本旅客鉄道(株)	48	15	"
(株)クボタ	18,000	14	"
富士通(株)	25,000	11	"
(株)りそなホールディングス	22,137	8	資金調達安定化のため
堺化学工業(株)	21,000	8	事業推進目的のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	57,000	7	資金調達安定化のため
西華産業(株)	20,000	4	取引関係維持のため
(株)電業社機械製作所	1,800	2	"
青木マリーン(株)	3,900	1	"
佐世保重工業(株)	2,326	0	"
明治海運(株)	1,000	0	"

(3) 純投資目的の投資株式の上場・非上場区分による貸借対照表計上額及び受取配当額等
 該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	31	-	33	3
連結子会社	-	-	-	-
計	31	-	33	3

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

当社連結子会社であるDAIHATSU DIESEL (EUROPE) LTD.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Young LLPに対し、監査証明業務に基づく報酬として3百万円、非監査業務に基づく報酬として3百万円を支払っております。この非監査業務の内容としては、税務申告サービスとなっております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

当社連結子会社であるDAIHATSU DIESEL (EUROPE) LTD.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Young LLPに対し、監査証明業務に基づく報酬として2百万円、非監査業務に基づく報酬として6百万円を支払っております。この非監査業務の内容としては、税務申告サービスとなっております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

当社は監査公認会計士等に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務(非監査業務)である「IFRS(国際財務報告基準)に関するアドバイザー業務」を委託し、その対価を支払っております。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、業務内容や監査日数等を勘案して定めております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)及び前事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)並びに当連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)及び当事業年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準の内容及び変更について当社への影響を適切に把握するために、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、各種情報を取得するとともに、専門的情報を有する団体等が主催する研修・セミナーに積極的に参加し、連結財務諸表等の適正性確保に取り組んでおります。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,620,549	12,794,602
受取手形及び売掛金	17,348,209	16,542,531
たな卸資産	² 10,311,199	² 9,268,860
繰延税金資産	2,074,825	2,311,829
その他	667,923	591,863
貸倒引当金	90,182	83,413
流動資産合計	36,932,524	41,426,274
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,226,689	7,786,294
機械装置及び運搬具(純額)	7,345,901	6,327,054
土地	⁵ 5,028,033	⁵ 5,029,204
建設仮勘定	93,918	307,841
その他(純額)	1,331,013	1,025,796
有形固定資産合計	^{1, 4} 22,025,556	^{1, 4} 20,476,193
無形固定資産	1,601,869	1,140,537
投資その他の資産		
投資有価証券	³ 862,811	³ 785,113
長期貸付金	26,433	15,456
繰延税金資産	1,701,813	1,811,428
その他	986,532	1,026,307
貸倒引当金	130,327	124,300
投資その他の資産合計	3,447,262	3,514,004
固定資産合計	27,074,688	25,130,735
資産合計	64,007,213	66,557,009
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,446,466	12,553,915
短期借入金	7,232,853	10,371,116
1年内償還予定の社債	500,000	-
リース債務	684,675	603,389
未払法人税等	802,064	1,879,284
賞与引当金	756,227	688,252
役員賞与引当金	65,000	65,000
未払費用	3,274,411	3,102,482
その他	2,702,180	2,105,468
流動負債合計	28,463,878	31,368,909

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
固定負債		
長期借入金	4 7,276,716	4 3,985,600
リース債務	1,253,674	758,136
再評価に係る繰延税金負債	5 518,705	5 518,705
退職給付引当金	4,238,224	4,244,543
役員退職慰労引当金	447,580	488,100
資産除去債務	-	351,724
その他	6 2,683,363	6 2,570,244
固定負債合計	16,418,264	12,917,054
負債合計	44,882,142	44,285,963
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,434,300	2,434,300
資本剰余金	2,170,871	2,170,871
利益剰余金	13,887,662	17,161,595
自己株式	7,918	8,124
株主資本合計	18,484,915	21,758,643
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	107,190	56,504
繰延ヘッジ損益	8,758	2
土地再評価差額金	5 716,306	5 716,306
為替換算調整勘定	185,562	273,082
その他の包括利益累計額合計	629,175	499,725
少数株主持分	10,979	12,676
純資産合計	19,125,070	22,271,045
負債純資産合計	64,007,213	66,557,009

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
売上高	63,782,973	58,108,323
売上原価	² 47,462,054	² 41,401,003
売上総利益	16,320,919	16,707,319
販売費及び一般管理費		
販売費	8,454,761	7,653,809
一般管理費	2,460,627	2,820,829
販売費及び一般管理費合計	¹ 10,915,388	¹ 10,474,638
営業利益	5,405,530	6,232,680
営業外収益		
受取利息	32,198	18,965
受取配当金	18,564	19,719
受取補償金	44,100	-
業務受託料	-	42,905
負ののれん償却額	62,453	62,489
雑収入	178,568	119,921
営業外収益合計	335,885	264,001
営業外費用		
支払利息	314,847	269,786
為替差損	54,229	22,544
雑損失	59,989	43,807
営業外費用合計	429,066	336,138
経常利益	5,312,349	6,160,544
特別利益		
固定資産売却益	³ 638	³ 1,010
貸倒引当金戻入額	-	25,596
関係会社清算益	468,555	-
特別利益合計	469,193	26,607
特別損失		
固定資産廃棄損	⁴ 48,446	⁴ 16,274
固定資産売却損	⁵ 1,089	⁵ 809
減損損失	⁶ 146,940	-
投資有価証券評価損	15,457	12,694
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	289,564
その他	5,520	18,604
特別損失合計	217,455	337,947
税金等調整前当期純利益	5,564,088	5,849,204
法人税、住民税及び事業税	1,871,525	2,638,105
法人税等調整額	215,519	319,234
法人税等合計	2,087,044	2,318,870
少数株主損益調整前当期純利益	-	3,530,334
少数株主利益	1,741	1,697
当期純利益	3,475,301	3,528,637

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	-	3,530,334
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	50,686
繰延ヘッジ損益	-	8,756
為替換算調整勘定	-	87,519
その他の包括利益合計	-	² 129,449
包括利益	-	¹ 3,400,884
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	-	3,399,187
少数株主に係る包括利益	-	1,697

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	2,434,300	2,434,300
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,434,300	2,434,300
資本剰余金		
前期末残高	2,170,871	2,170,871
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,170,871	2,170,871
利益剰余金		
前期末残高	10,667,067	13,887,662
当期変動額		
剰余金の配当	254,706	254,703
当期純利益	3,475,301	3,528,637
当期変動額合計	3,220,594	3,273,933
当期末残高	13,887,662	17,161,595
自己株式		
前期末残高	7,693	7,918
当期変動額		
自己株式の取得	225	205
当期変動額合計	225	205
当期末残高	7,918	8,124
株主資本合計		
前期末残高	15,264,545	18,484,915
当期変動額		
剰余金の配当	254,706	254,703
当期純利益	3,475,301	3,528,637
自己株式の取得	225	205
当期変動額合計	3,220,369	3,273,728
当期末残高	18,484,915	21,758,643

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	47,951	107,190
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	59,239	50,686
当期変動額合計	59,239	50,686
当期末残高	107,190	56,504
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	42,823	8,758
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	34,064	8,756
当期変動額合計	34,064	8,756
当期末残高	8,758	2
土地再評価差額金		
前期末残高	716,306	716,306
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	716,306	716,306
為替換算調整勘定		
前期末残高	243,239	185,562
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	57,677	87,519
当期変動額合計	57,677	87,519
当期末残高	185,562	273,082
その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	478,194	629,175
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	150,981	129,449
当期変動額合計	150,981	129,449
当期末残高	629,175	499,725
少数株主持分		
前期末残高	8,649	10,979
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,329	1,697
当期変動額合計	2,329	1,697
当期末残高	10,979	12,676

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
純資産合計		
前期末残高	15,751,390	19,125,070
当期変動額		
剰余金の配当	254,706	254,703
当期純利益	3,475,301	3,528,637
自己株式の取得	225	205
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	153,310	127,752
当期変動額合計	3,373,680	3,145,975
当期末残高	19,125,070	22,271,045

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,564,088	5,849,204
減価償却費	2,893,921	2,972,776
貸倒引当金の増減額 (は減少)	74,508	12,735
賞与引当金の増減額 (は減少)	18,529	67,974
役員賞与引当金の増減額 (は減少)	15,000	-
退職給付引当金の増減額 (は減少)	206,046	6,318
役員退職慰労引当金の増減額 (は減少)	79,182	40,520
受取利息及び受取配当金	50,762	38,685
支払利息	314,847	269,786
有形固定資産売却損益 (は益)	450	201
固定資産廃棄損	48,446	16,274
関係会社清算損益 (は益)	468,555	-
減損損失	146,940	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	289,564
投資有価証券評価損益 (は益)	15,457	12,694
売上債権の増減額 (は増加)	941,872	563,793
たな卸資産の増減額 (は増加)	3,166,497	1,040,799
仕入債務の増減額 (は減少)	4,685,762	357,247
未払又は未収消費税等の増減額	370,214	147,050
預り保証金の増減額 (は減少)	11,531	8,205
その他	99,095	142,796
小計	5,898,238	11,581,025
利息及び配当金の受取額	51,972	37,939
利息の支払額	315,355	272,231
法人税等の支払額	2,135,705	1,555,750
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,499,149	9,790,982
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	3,345,814	1,841,678
有形固定資産の売却による収入	4,178	3,839
無形固定資産の取得による支出	28,121	2,020
投資有価証券の取得による支出	-	20,397
投資有価証券の売却による収入	1,735	-
貸付けによる支出	4,900	-
貸付金の回収による収入	10,227	10,976
定期預金の払戻による収入	1,272,293	536,856
定期預金の預入による支出	1,042,612	129,924
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,133,012	1,442,347

	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (は減少)	2,051,055	1,530,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	727,773	685,750
長期借入れによる収入	4,600,000	-
長期借入金の返済による支出	3,453,853	1,682,853
社債の償還による支出	140,000	500,000
自己株式の取得による支出	225	205
配当金の支払額	254,928	254,140
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,027,836	1,592,950
現金及び現金同等物に係る換算差額	97,466	125,704
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	1,564,233	6,629,981
現金及び現金同等物の期首残高	7,199,596	5,635,363
現金及び現金同等物の期末残高	5,635,363	12,265,344

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>1 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社(13社) 連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。 従来、連結の範囲に含めておりましたダイハツディーゼルエヌ・エイチ・エヌ株式会社は、平成22年3月に清算結了いたしました。なお、当連結会計年度においては、同社の清算結了時までの損益計算書のみを連結しております。</p> <p>(2) 主な非連結子会社の名称等 ディー・ディー・テクニカル(株) (株)ツバササービス</p> <p>これらの会社は、小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。</p>	<p>1 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社(13社) 連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。</p> <p>(2) 主な非連結子会社の名称等 ディー・ディー・テクニカル(株) (株)ツバササービス MDエンジニアリング(株)</p> <p>これらの会社は、小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。</p>
<p>2 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法適用の非連結子会社.....なし 非連結子会社(ディー・ディー・テクニカル(株)、(株)ツバササービス)は、連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、この会社に対する投資については、持分法を適用せず、原価法により評価しております。</p> <p>(2) 持分法適用の関連会社 なし</p> <p>(3) 持分法非適用の関連会社 関連会社DAIHATSU DIESEL ANQING IRONWORKS CO.,LTD.は、連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、この会社に対する投資については、持分法を適用せず、原価法により評価しております。</p>	<p>2 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法適用の非連結子会社.....なし 非連結子会社(ディー・ディー・テクニカル(株)、(株)ツバササービス、MDエンジニアリング(株))は、連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、この会社に対する投資については、持分法を適用せず、原価法により評価しております。</p> <p>(2) 持分法適用の関連会社 なし</p> <p>(3) 持分法非適用の関連会社 同左</p>
<p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項</p> <p>連結子会社のうち、 DAIHATSU DIESEL (EUROPE) LTD., DAIHATSU DIESEL (ASIA PACIFIC) PTE.LTD., DAIHATSU DIESEL (AMERICA) INC., DAIHATSU DIESEL (SHANGHAI) CO.,LTD.の決算日は12月31日であり、連結財務諸表の作成にあたっては同日現在の財務諸表を使用しておりますが、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行う方法によっております。</p>	<p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項 同左</p>

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>4 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券 その他有価証券 時価のあるもの ……期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)</p> <p>時価のないもの ……移動平均法に基づく原価法</p> <p>たな卸資産 製品・仕掛品・原材料 ……総平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>有形固定資産(リース資産を除く) 定額法を採用しております。 但し一部連結子会社は定率法であります。 なお、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。</p> <p>無形固定資産(リース資産を除く) 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。</p> <p>リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。</p> <p>役員賞与引当金 役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、当連結会計年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。</p>	<p>4 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p> <p>たな卸資産 同左</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>有形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>リース資産 同左</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金 同左</p> <p>賞与引当金 同左</p> <p>役員賞与引当金 同左</p>

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>なお、会計基準変更時差異(5,741,788千円)については、15年による按分額を費用処理しております。</p> <p>また、過去勤務債務はその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理をしており、数理計算上の差異はその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により翌期から費用処理することとしております。</p> <p>役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に充てるため、当社及び国内連結子会社の一部は役員退職慰労金規定に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>(4) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約が付けられている外貨建金銭債権債務については、振当処理を行っております。</p> <p>また、ヘッジ会計の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象 当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。</p> <p>(a) ・ヘッジ手段：為替先物予約 ・ヘッジ対象：製品輸出による外貨建売上債権及び外貨建予定取引</p> <p>(b) ・ヘッジ手段：金利スワップ ・ヘッジ対象：借入金</p> <p>ヘッジ方針 「デリバティブ取引の取り扱い及びリスク管理規定」に基づき、為替変動リスク及び金利変動リスクを回避する手段としてデリバティブ取引を行っております。</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法 為替予約及び金利スワップについては、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動を完全に相殺するものと想定できるため、ヘッジの有効性の評価は省略しております。</p>	<p>退職給付引当金 同左</p> <p>役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(4) 重要なヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>ヘッジ方針 同左</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法 同左</p>

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。</p> <p>5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法によっております。</p> <p>6 負ののれんの償却に関する事項 負ののれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。</p> <p>7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなります。</p>	<p>(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左</p> <p>(6) のれんの償却方法及び償却期間 過年度に発生した負ののれんについては、5年間の均等償却を行っております。</p> <p>(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 手許現金、随時引き出し可能な預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資であります。</p>

【会計方針の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(資産除去債務に関する会計基準等) 当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。 これにより、当連結会計年度の営業利益及び経常利益はそれぞれ7,113千円、税金等調整前当期純利益は296,678千円減少しております。</p>

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(連結損益計算書関係) 当連結会計年度より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき、財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(内閣府令第5号 平成21年 3月24日)を適用し、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p>

【追加情報】

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年 6月30日)を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
1 有形固定資産減価償却累計額 27,409,549千円	1 有形固定資産減価償却累計額 29,439,458千円
2 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。 製品 58,906千円 原材料 21,144 仕掛品 10,231,149	2 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。 製品 45,833千円 原材料 80,939 仕掛品 9,142,087
3 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。 投資有価証券(株式) 130,231千円	3 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。 投資有価証券(株式) 150,231千円
4 担保資産 このうち 建物及び構築物 1,401,467千円 機械装置及び運搬具 395,147 土地 1,574,737 計 3,371,353	4 担保資産 このうち 建物及び構築物 1,286,356千円 機械装置及び運搬具 294,226 土地 1,574,737 計 3,155,320
は、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)195,900千円の担保として財団抵当に供しております。	は、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)81,100千円の担保として財団抵当に供しております。
また、上記以外に 建物及び構築物 4,940,257千円 機械装置及び運搬具 19,292 土地 413,663 その他 13,941 計 5,387,154	また、上記以外に 建物及び構築物 4,679,011千円 機械装置及び運搬具 12,789 土地 8,063 その他 9,828 計 4,709,693
を、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)411,200千円の担保に供しております。	を、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)267,600千円の担保に供しております。
5 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該評価差額については、税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。 ・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める算出方法により算出しております。 ・再評価を行った年月日 平成11年12月31日	5 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該評価差額については、税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。 ・再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める算出方法により算出しております。 ・再評価を行った年月日 平成11年12月31日
6 その他の固定負債のうちには、負ののれんが187,144千円含まれております。	6 その他の固定負債のうちには、負ののれんが124,655千円含まれております。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																																														
<p>1 販売費及び一般管理費の主な内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">給料・賃金・賞与</td> <td style="text-align: right;">3,198,317千円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">343,386</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">390,553</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">96,993</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">631,121</td> </tr> <tr> <td>販売諸掛費</td> <td style="text-align: right;">802,024</td> </tr> </table> <p>2 研究開発費の総額 研究開発費は売上原価に含まれており、次のとおりであります。 1,713,772千円</p> <p>3 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。 機械装置及び運搬具 638千円</p> <p>4 固定資産廃棄損の内容は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">22,669千円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">16,962</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">8,814</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">48,446</td> </tr> </table> <p>5 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。 機械装置及び運搬具 1,089千円</p> <p>6 減損損失 当連結会計年度においては、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。 なお、当社グループは、グルーピングの基準を事業の種類別セグメントとし、事業の用に供していない遊休資産については個々の物件単位でグルーピングしております。 (不動産賃貸関連事業)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 20%;">場所</td> <td>滋賀県守山市</td> </tr> <tr> <td>用途</td> <td>不動産賃貸関連事業資産</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>建物及び構築物、機械装置及び運搬具</td> </tr> </table> <p>当該資産については、将来獲得するであろうキャッシュ・フローで帳簿価額を全額回収できる可能性が低いと認められることから、146,940千円の減損損失を認識いたしました。 減損を実施した資産の回収可能価額は、正味売却価額により測定しております。当該資産の正味売却価額は零として評価をしております。</p>	給料・賃金・賞与	3,198,317千円	賞与引当金繰入額	343,386	退職給付費用	390,553	役員退職慰労引当金繰入額	96,993	減価償却費	631,121	販売諸掛費	802,024	建物及び構築物	22,669千円	機械装置及び運搬具	16,962	その他	8,814	計	48,446	場所	滋賀県守山市	用途	不動産賃貸関連事業資産	種類	建物及び構築物、機械装置及び運搬具	<p>1 販売費及び一般管理費の主な内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">給料・賃金・賞与</td> <td style="text-align: right;">3,170,837千円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">284,378</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">398,389</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">87,936</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td style="text-align: right;">611,302</td> </tr> <tr> <td>販売諸掛費</td> <td style="text-align: right;">803,690</td> </tr> </table> <p>2 研究開発費の総額 研究開発費は売上原価に含まれており、次のとおりであります。 1,444,470千円</p> <p>3 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。 機械装置及び運搬具 1,010千円</p> <p>4 固定資産廃棄損の内容は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">3,616千円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">6,674</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">5,983</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">16,274</td> </tr> </table> <p>5 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。 機械装置及び運搬具 793千円 その他 16 計 809</p>	給料・賃金・賞与	3,170,837千円	賞与引当金繰入額	284,378	退職給付費用	398,389	役員退職慰労引当金繰入額	87,936	減価償却費	611,302	販売諸掛費	803,690	建物及び構築物	3,616千円	機械装置及び運搬具	6,674	その他	5,983	計	16,274
給料・賃金・賞与	3,198,317千円																																														
賞与引当金繰入額	343,386																																														
退職給付費用	390,553																																														
役員退職慰労引当金繰入額	96,993																																														
減価償却費	631,121																																														
販売諸掛費	802,024																																														
建物及び構築物	22,669千円																																														
機械装置及び運搬具	16,962																																														
その他	8,814																																														
計	48,446																																														
場所	滋賀県守山市																																														
用途	不動産賃貸関連事業資産																																														
種類	建物及び構築物、機械装置及び運搬具																																														
給料・賃金・賞与	3,170,837千円																																														
賞与引当金繰入額	284,378																																														
退職給付費用	398,389																																														
役員退職慰労引当金繰入額	87,936																																														
減価償却費	611,302																																														
販売諸掛費	803,690																																														
建物及び構築物	3,616千円																																														
機械装置及び運搬具	6,674																																														
その他	5,983																																														
計	16,274																																														

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益

親会社株主に係る包括利益	3,626,282千円
少数株主に係る包括利益	1,741
計	3,628,024

2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益

その他有価証券評価差額金	59,239千円
繰延ヘッジ損益	34,064
為替換算調整勘定	57,677
計	150,981

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

(単位:株)

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	31,850,000	-	-	31,850,000

2 自己株式に関する事項

(単位:株)

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	11,663	400	-	12,063

単元未満株式の買取による増加 400株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	254,706千円	普通配: 8円	平成21年3月31日	平成21年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	254,703千円	普通配: 8円	平成22年3月31日	平成22年6月30日

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

(単位:株)

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	31,850,000	-	-	31,850,000

2 自己株式に関する事項

(単位:株)

株式の種類	前連結会計年度末	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,063	627	-	12,690

単元未満株式の買取による増加 627株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成22年 6月29日 定時株主総会	普通株式	254,703千円	普通配: 8円	平成22年 3月31日	平成22年 6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成23年 6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	254,698千円	普通配: 8円	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
1 現金及び現金同等物の期末残高と、連結貸借対照表に記載されている現金及び預金の金額との関係は、次のとおりであります。 現金及び預金勘定 6,620,549千円 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 985,186 期末残高相当額 5,635,363	1 現金及び現金同等物の期末残高と、連結貸借対照表に記載されている現金及び預金の金額との関係は、次のとおりであります。 現金及び預金勘定 12,794,602千円 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 529,258 期末残高相当額 12,265,344

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)												
<p>1 ファイナンス・リース取引 (借主側)</p> <p>(1) リース資産の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産 主として、内燃機関関連事業における事務機器 (コピー機、コンピュータサーバ、コンピュータ端 末)であります。 ・無形固定資産 主として、内燃機関関連事業における販売・生産 管理用ソフトウェアであります。 <p>(2) リース資産の減価償却の方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定 額法によっております。</p> <p>2 オペレーティング・リース取引 (借主側)</p> <p>オペレーティング・リース取引のうち解約不能の ものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一年内</td> <td style="text-align: right;">30,597千円</td> </tr> <tr> <td>一年超</td> <td style="text-align: right;">26,817</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">57,415</td> </tr> </table>	一年内	30,597千円	一年超	26,817	計	57,415	<p>1 ファイナンス・リース取引 (借主側)</p> <p>(1) リース資産の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産 主として、船用機関関連事業及び陸用機関関連事 業における事務機器(コピー機、コンピュータ サーバ、コンピュータ端末)であります。 ・無形固定資産 主として、船用機関関連事業及び陸用機関関連事 業における販売・生産管理用ソフトウェアであり ます。 <p>(2) リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>2 オペレーティング・リース取引 (借主側)</p> <p>オペレーティング・リース取引のうち解約不能の ものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一年内</td> <td style="text-align: right;">22,170千円</td> </tr> <tr> <td>一年超</td> <td style="text-align: right;">5,457</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">27,628</td> </tr> </table>	一年内	22,170千円	一年超	5,457	計	27,628
一年内	30,597千円												
一年超	26,817												
計	57,415												
一年内	22,170千円												
一年超	5,457												
計	27,628												

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(追加情報)

当連結会計年度から平成20年3月10日改正の「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準委員会 企業会計基準第10号)及び同日公表の「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第19号)を適用しております。

1 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用についてはその大部分を安全性の高い短期的な銀行預金等で運用しております。また資金調達につきましても、銀行借入または銀行引受社債の発行により調達しております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規定に沿ってリスク低減を図っております。また、売掛金の一部は、輸出に伴う外貨建てのものがあり、その為替変動リスクを軽減するため、一部については先物為替予約によってヘッジしております。

また、投資有価証券は株式であり、上場株式については市場価格の変動リスクに晒されております。支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、その一部には材料等の輸入に伴う外貨建てのものがあります。これは為替の変動リスクに晒されていますが、その残高は外貨建ての売掛債権の残高範囲内であります。

借入金の使途は運転資金(主として短期)および設備投資資金(長期)であり、一部の長期借入金に係る金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。

デリバティブ取引は、外貨建て営業債権に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引と、長期借入金に係る金利変動リスクを軽減する目的で金利スワップ取引を行っております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価の方法については、前述の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」「4 会計処理基準に関する事項」に記載されている「(4)重要なヘッジ会計の方法」を参照ください。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は販売取引先等管理委員会を設置し、与信先の業況を充分注意するなど不良債権や貸倒損失の発生を防ぐ対策をしております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

市場リスク(為替及び金利等の変動に係るリスク)の管理

当社は、外貨建て営業債権に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的として先物為替予約取引を利用しております。

また、長期借入金に係る金利変動リスクに対しては金利スワップ取引を利用しております。

これらのデリバティブ取引については、取締役会等で審査承認のうえ、執行の際は当該承認に基づき各部門の依頼により経理部にて執行しております。

投資有価証券については、時価のあるものについては四半期ごとに把握を行い、時価のないものについては定期的に発行体の財務状況等を確認しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部にて資金繰り表を作成することにより、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

(1)連結貸借対照表の科目ごとの情報

(単位：千円)

科目	連結決算日における連結貸借対照表計上額	連結決算日における時価	差額
現金及び預金	6,620,549	6,620,549	
受取手形及び売掛金	17,348,209	17,348,209	
投資有価証券	561,864	561,864	
投資その他の資産 / その他 (長期預金)	400,000	344,543	55,456
資産計	24,930,623	24,875,167	55,456
支払手形及び買掛金	12,446,466	12,446,466	
短期借入金	5,550,000	5,550,000	
長期借入金 (一年内返済予定を含む)	8,959,570	9,088,062	128,492
負債計	26,956,036	27,084,528	128,492
デリバティブ取引 (*)	(14,745)	(14,745)	

(*)デリバティブ取引によって生じた正味の債権債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で表示しております。

注1.金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1)資産

現金及び預金並びに 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、為替予約の振当処理の対象とされている売掛金は、当該為替予約と一体として処理された額をもって評価しております。

投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの投資有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

投資その他の資産 / その他 (長期預金)

この時価は、取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2)負債

支払手形及び買掛金並びに 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金 (一年内返済予定を含む)

この時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。なお、変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(3) デリバティブ取引

デリバティブの時価については、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定してあります。なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載してあります(上記(2)参照)。また、為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金の時価に含めて記載してあります(上記(1)参照)。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	連結決算日における連結貸借対照表計上額
非上場株式	300,947

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「投資有価証券」には含めておりません。

(2) 満期のある金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：千円)

科目	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	6,607,198			
受取手形及び売掛金	17,348,209			
投資その他の資産/ その他(長期預金)				400,000

(3) 長期借入金(1年内返済予定を含む)の連結決算日後の返済予定額

(単位：千円)

科目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	1,682,853	3,291,116	1,014,000	523,600	2,044,200	403,800

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用についてはその大部分を安全性の高い短期的な銀行預金等で運用しております。また資金調達につきましても、銀行借入または銀行引受社債の発行により調達しております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規定に沿ってリスク低減を図っております。また、売掛金の一部は、輸出に伴う外貨建てのものがあり、その為替変動リスクを軽減するため、一部については先物為替予約によってヘッジしております。

また、投資有価証券は株式であり、上場株式については市場価格の変動リスクに晒されております。

支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、その一部には材料等の輸入に伴う外貨建てのものがあります。これは為替の変動リスクに晒されていますが、その残高は外貨建ての売掛債権の残高範囲内です。

借入金の使途は運転資金(主として短期)および設備投資資金(長期)であり、一部の長期借入金に係る金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。

デリバティブ取引は、外貨建て営業債権に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引と、長期借入金に係る金利変動リスクを軽減する目的で金利スワップ取引を行っております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価の方法については、前述の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」「4 会計処理基準に関する事項」に記載されている「(4)重要なヘッジ会計の方法」を参照ください。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は販売取引先等管理委員会を設置し、与信先の業況を充分注意するなど不良債権や貸倒損失の発生を防ぐ対策をしております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

市場リスク(為替及び金利等の変動に係るリスク)の管理

当社は、外貨建て営業債権に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的として先物為替予約取引を利用しております。

また、長期借入金に係る金利変動リスクに対しては金利スワップ取引を利用しております。

これらのデリバティブ取引については、取締役会等で審査承認のうえ、執行の際は当該承認に基づき各部門の依頼により経理部にて執行しております。

投資有価証券については、時価のあるものについては四半期ごとに把握を行い、時価のないものについては定期的に発行体の財務状況等を確認しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部にて資金繰り表を作成することにより、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

(1)連結貸借対照表の科目ごとの情報

(単位：千円)

科目	連結決算日における連結貸借対照表計上額	連結決算日における時価	差額
現金及び預金	12,794,602	12,794,602	
受取手形及び売掛金	16,542,531	16,542,531	
投資有価証券	466,589	466,589	
投資その他の資産 / その他 (長期預金)	400,000	342,269	57,730
資産計	30,203,723	30,145,992	57,730
支払手形及び買掛金	12,553,915	12,553,915	
短期借入金	7,080,000	7,080,000	
長期借入金 (一年内返済予定を含む)	7,276,716	7,383,440	106,723
負債計	26,910,632	27,017,355	106,723
デリバティブ取引 (*)	(4)	(4)	

(*)デリバティブ取引によって生じた正味の債権債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で表示しております。

注1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1)資産

現金及び預金並びに 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、為替予約の振当処理の対象とされている売掛金は、当該為替予約と一体として処理された額をもって評価しております。

投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの投資有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

投資その他の資産 / その他 (長期預金)

この時価は、取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2)負債

支払手形及び買掛金並びに 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金 (一年内返済予定を含む)

この時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。なお、変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(3) デリバティブ取引

デリバティブの時価については、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております(上記(2)参照)。また、為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金の時価に含めて記載しております(上記(1)参照)。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表 計上額
非上場株式	318,524

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「投資有価証券」には含めておりません。

(2) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：千円)

科目	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	12,784,567			
受取手形及び売掛金	16,542,531			
投資その他の資産/ その他(長期預金)				400,000

(3) 長期借入金(1年内返済予定を含む)の連結決算日後の返済予定額

(単位：千円)

科目	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	3,291,116	1,014,000	523,600	2,044,200	48,800	355,000

(有価証券関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(1) 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

(2) その他有価証券

(単位：千円)

区分	連結決算日における連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	419,522	217,276	202,246
その他			
小計	419,522	217,276	202,246
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	142,341	163,790	21,449
その他			
小計	142,341	163,790	21,449
合計	561,864	381,066	180,797

- (注) 1. 非上場株式(連結貸借対照表計上額300,947千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の表の「その他有価証券」には含めておりません。
2. 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損15,457千円を計上しております。

(3) 連結会計年度中に売却したその他有価証券

(単位：千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	1,735		

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

(1) 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

(2) その他有価証券

(単位：千円)

区分	連結決算日 における連 結貸借対照 表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	293,589	174,232	119,356
その他			
小計	293,589	174,232	119,356
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	173,000	196,960	23,959
その他			
小計	173,000	196,960	23,959
合計	466,589	371,193	95,396

- (注) 1. 非上場株式(連結貸借対照表計上額318,524千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の表の「その他有価証券」には含めておりません。
2. 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損10,271千円を計上しております。

(3) 連結会計年度中に売却したその他有価証券

該当事項はありません。

[次へ](#)

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1)通貨関連

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	連結決算日における時価
原則的処理方法	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	876,715		14,745
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	1,618,994		(注2)
合計			2,495,709		

(注) 1. 時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等によっております。

2. 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金の時価に含めて記載しております。

(2)金利関連

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	連結決算日における時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	7,812,070	6,486,816	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1)通貨関連

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	連結決算日における時価
原則的処理方法	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	211,022		4
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	932,427		(注2)
合計			1,143,449		

(注) 1. 時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等によっております。

2. 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金の時価に含めて記載しております。

(2)金利関連

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	連結決算日における時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	6,486,816	3,509,200	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																																																																								
<p>1 採用している退職給付制度の概要 当社及び一部を除いた連結子会社は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。 当連結会計年度末現在、当社及び連結子会社全体で退職一時金制度については9社が有しております。</p> <p>2 退職給付債務に関する事項 (平成22年 3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">7,002,977千円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td style="text-align: right;">131,925</td> </tr> <tr> <td>未積立退職給付債務(+)</td> <td style="text-align: right;">6,871,051</td> </tr> <tr> <td>会計基準変更時差異の未処理額</td> <td style="text-align: right;">1,913,930</td> </tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">539,353</td> </tr> <tr> <td>未認識過去勤務債務</td> <td style="text-align: right;">179,542</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金 (+ + +)</td> <td style="text-align: right;">4,238,224</td> </tr> </table> <p>(注) 連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p> <p>3 退職給付費用に関する事項 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">勤務費用</td> <td style="text-align: right;">384,779千円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td style="text-align: right;">138,962</td> </tr> <tr> <td>会計基準変更時差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">382,785</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">122,929</td> </tr> <tr> <td>過去勤務債務の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">22,052</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用 (+ + + + +)</td> <td style="text-align: right;">1,051,509</td> </tr> </table> <p>(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。</p> <p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">退職給付見込額の期間配分方法</th> <th style="width: 70%;">期間定額基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割引率</td> <td>2.0%</td> </tr> <tr> <td>過去勤務債務の額の処理年数</td> <td>10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法によっております。)</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td>10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)</td> </tr> <tr> <td>会計基準変更時差異の処理年数</td> <td>15年</td> </tr> </tbody> </table>	退職給付債務	7,002,977千円	年金資産	131,925	未積立退職給付債務(+)	6,871,051	会計基準変更時差異の未処理額	1,913,930	未認識数理計算上の差異	539,353	未認識過去勤務債務	179,542	退職給付引当金 (+ + +)	4,238,224	勤務費用	384,779千円	利息費用	138,962	会計基準変更時差異の費用処理額	382,785	数理計算上の差異の費用処理額	122,929	過去勤務債務の費用処理額	22,052	退職給付費用 (+ + + + +)	1,051,509	退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	割引率	2.0%	過去勤務債務の額の処理年数	10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法によっております。)	数理計算上の差異の処理年数	10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)	会計基準変更時差異の処理年数	15年	<p>1 採用している退職給付制度の概要 当社及び一部を除いた連結子会社は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。 当連結会計年度末現在、当社及び連結子会社全体で退職一時金制度については9社が有しております。</p> <p>2 退職給付債務に関する事項 (平成23年 3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">6,439,281千円</td> </tr> <tr> <td>年金資産</td> <td style="text-align: right;">84,511</td> </tr> <tr> <td>未積立退職給付債務(+)</td> <td style="text-align: right;">6,354,769</td> </tr> <tr> <td>会計基準変更時差異の未処理額</td> <td style="text-align: right;">1,531,144</td> </tr> <tr> <td>未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">414,390</td> </tr> <tr> <td>未認識過去勤務債務</td> <td style="text-align: right;">164,691</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金 (+ + +)</td> <td style="text-align: right;">4,244,543</td> </tr> </table> <p>(注) 連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。</p> <p>3 退職給付費用に関する事項 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">勤務費用</td> <td style="text-align: right;">357,739千円</td> </tr> <tr> <td>利息費用</td> <td style="text-align: right;">132,910</td> </tr> <tr> <td>会計基準変更時差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">382,785</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">124,962</td> </tr> <tr> <td>過去勤務債務の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">22,451</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用 (+ + + + +)</td> <td style="text-align: right;">1,020,850</td> </tr> </table> <p>(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。</p> <p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">退職給付見込額の期間配分方法</th> <th style="width: 70%;">期間定額基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割引率</td> <td>2.0%</td> </tr> <tr> <td>過去勤務債務の額の処理年数</td> <td>10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法によっております。)</td> </tr> <tr> <td>数理計算上の差異の処理年数</td> <td>10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)</td> </tr> <tr> <td>会計基準変更時差異の処理年数</td> <td>15年</td> </tr> </tbody> </table>	退職給付債務	6,439,281千円	年金資産	84,511	未積立退職給付債務(+)	6,354,769	会計基準変更時差異の未処理額	1,531,144	未認識数理計算上の差異	414,390	未認識過去勤務債務	164,691	退職給付引当金 (+ + +)	4,244,543	勤務費用	357,739千円	利息費用	132,910	会計基準変更時差異の費用処理額	382,785	数理計算上の差異の費用処理額	124,962	過去勤務債務の費用処理額	22,451	退職給付費用 (+ + + + +)	1,020,850	退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	割引率	2.0%	過去勤務債務の額の処理年数	10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法によっております。)	数理計算上の差異の処理年数	10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)	会計基準変更時差異の処理年数	15年
退職給付債務	7,002,977千円																																																																								
年金資産	131,925																																																																								
未積立退職給付債務(+)	6,871,051																																																																								
会計基準変更時差異の未処理額	1,913,930																																																																								
未認識数理計算上の差異	539,353																																																																								
未認識過去勤務債務	179,542																																																																								
退職給付引当金 (+ + +)	4,238,224																																																																								
勤務費用	384,779千円																																																																								
利息費用	138,962																																																																								
会計基準変更時差異の費用処理額	382,785																																																																								
数理計算上の差異の費用処理額	122,929																																																																								
過去勤務債務の費用処理額	22,052																																																																								
退職給付費用 (+ + + + +)	1,051,509																																																																								
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																																																																								
割引率	2.0%																																																																								
過去勤務債務の額の処理年数	10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法によっております。)																																																																								
数理計算上の差異の処理年数	10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)																																																																								
会計基準変更時差異の処理年数	15年																																																																								
退職給付債務	6,439,281千円																																																																								
年金資産	84,511																																																																								
未積立退職給付債務(+)	6,354,769																																																																								
会計基準変更時差異の未処理額	1,531,144																																																																								
未認識数理計算上の差異	414,390																																																																								
未認識過去勤務債務	164,691																																																																								
退職給付引当金 (+ + +)	4,244,543																																																																								
勤務費用	357,739千円																																																																								
利息費用	132,910																																																																								
会計基準変更時差異の費用処理額	382,785																																																																								
数理計算上の差異の費用処理額	124,962																																																																								
過去勤務債務の費用処理額	22,451																																																																								
退職給付費用 (+ + + + +)	1,020,850																																																																								
退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																																																																								
割引率	2.0%																																																																								
過去勤務債務の額の処理年数	10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法によっております。)																																																																								
数理計算上の差異の処理年数	10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。)																																																																								
会計基準変更時差異の処理年数	15年																																																																								

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(平成22年3月31日現在)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成23年3月31日現在)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)																																																				
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未実現利益</td><td style="text-align: right;">40,955</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">1,720,760</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">455,628</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">308,686</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">182,989</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">2,436,493</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,145,514</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">1,184,817</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,960,696</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">66,809</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">73,494</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">54,271</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">194,575</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額 3,766,120</p>	未実現利益	40,955	退職給付引当金	1,720,760	繰越欠損金	455,628	賞与引当金	308,686	役員退職慰労引当金	182,989	その他	2,436,493	繰延税金資産小計	5,145,514	評価性引当額	1,184,817	繰延税金資産合計	3,960,696	固定資産圧縮積立金	66,809	その他有価証券評価差額金	73,494	その他	54,271	繰延税金負債合計	194,575	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未実現利益</td><td style="text-align: right;">38,546</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">1,724,409</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">452,909</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">281,001</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">199,379</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">2,463,475</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,159,722</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">900,591</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,259,131</td></tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">61,291</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">38,936</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">43,897</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">144,125</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額 4,115,006</p>	未実現利益	38,546	退職給付引当金	1,724,409	繰越欠損金	452,909	賞与引当金	281,001	役員退職慰労引当金	199,379	その他	2,463,475	繰延税金資産小計	5,159,722	評価性引当額	900,591	繰延税金資産合計	4,259,131	固定資産圧縮積立金	61,291	その他有価証券評価差額金	38,936	その他	43,897	繰延税金負債合計	144,125
未実現利益	40,955																																																				
退職給付引当金	1,720,760																																																				
繰越欠損金	455,628																																																				
賞与引当金	308,686																																																				
役員退職慰労引当金	182,989																																																				
その他	2,436,493																																																				
繰延税金資産小計	5,145,514																																																				
評価性引当額	1,184,817																																																				
繰延税金資産合計	3,960,696																																																				
固定資産圧縮積立金	66,809																																																				
その他有価証券評価差額金	73,494																																																				
その他	54,271																																																				
繰延税金負債合計	194,575																																																				
未実現利益	38,546																																																				
退職給付引当金	1,724,409																																																				
繰越欠損金	452,909																																																				
賞与引当金	281,001																																																				
役員退職慰労引当金	199,379																																																				
その他	2,463,475																																																				
繰延税金資産小計	5,159,722																																																				
評価性引当額	900,591																																																				
繰延税金資産合計	4,259,131																																																				
固定資産圧縮積立金	61,291																																																				
その他有価証券評価差額金	38,936																																																				
その他	43,897																																																				
繰延税金負債合計	144,125																																																				
<p>(注) 繰延税金資産の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">2,074,825</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">1,701,813</td></tr> <tr><td>流動負債 - その他</td><td style="text-align: right;">3,423</td></tr> <tr><td>固定負債 - その他</td><td style="text-align: right;">7,094</td></tr> </table>	流動資産 - 繰延税金資産	2,074,825	固定資産 - 繰延税金資産	1,701,813	流動負債 - その他	3,423	固定負債 - その他	7,094	<p>(注) 繰延税金資産の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">2,311,829</td></tr> <tr><td>固定資産 - 繰延税金資産</td><td style="text-align: right;">1,811,428</td></tr> <tr><td>流動負債 - その他</td><td style="text-align: right;">2,993</td></tr> <tr><td>固定負債 - その他</td><td style="text-align: right;">5,258</td></tr> </table>	流動資産 - 繰延税金資産	2,311,829	固定資産 - 繰延税金資産	1,811,428	流動負債 - その他	2,993	固定負債 - その他	5,258																																				
流動資産 - 繰延税金資産	2,074,825																																																				
固定資産 - 繰延税金資産	1,701,813																																																				
流動負債 - その他	3,423																																																				
固定負債 - その他	7,094																																																				
流動資産 - 繰延税金資産	2,311,829																																																				
固定資産 - 繰延税金資産	1,811,428																																																				
流動負債 - その他	2,993																																																				
固定負債 - その他	5,258																																																				
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：%)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.6</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">1.5</td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">3.5</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1.1</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">37.5</td></tr> </table>	法定実効税率	40.6	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5	税額控除	3.5	その他	1.1	税効果会計適用後法人税等の負担率	37.5	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p>																																								
法定実効税率	40.6																																																				
(調整)																																																					
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5																																																				
税額控除	3.5																																																				
その他	1.1																																																				
税効果会計適用後法人税等の負担率	37.5																																																				

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末(平成23年 3 月31日)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

当社グループの使用しております事業所の一部は、その所有者との間で、不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了による原状回復義務に関し資産除去債務を計上しております。

また当社グループの使用しております事業所の一部において、必要と考えられる有害物質を除去する義務に関しても資産除去債務を計上しております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等は、使用見込期間をその契約始期から15年と見積り、割引率は国債の流通利回りである1.810%～1.854%を使用して、資産除去債務の金額を算定しております。

(3) 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高 (注)	349,826千円
時の経過による調整額	1,898
期末残高	<u>351,724</u>

(注) 当連結会計年度より「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3 月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3 月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(追加情報)

当連結会計年度から平成20年11月28日公表の「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準(企業会計基準委員会 企業会計基準第20号)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第23号)を適用しております。

1 賃貸等不動産の概要

当社及び一部の子会社では、大阪府その他の地域において、賃貸用オフィスビル等を有しております。なお、賃貸用オフィスビルの一部については、当社及び一部の子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

2 賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額			連結決算日における時価
	前連結会計年度末残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
賃貸等不動産	932,608	175,067	757,541	783,317
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	5,248,739	267,184	4,981,554	4,270,000

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 主な変動

増加は、賃貸物件の設備更新 26,558千円
 減少は、減損物件の減損 146,940千円
 減価償却費 315,519千円

3. 時価の算定方法

当連結決算日における時価は、主要な不動産については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額であります。その他の不動産については、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づく価額等による金額であります。

3 賃貸等不動産に関する損益

(単位：千円)

	売上高	営業費用	営業利益	その他(売却損益等)
賃貸等不動産	112,764	26,246	86,517	
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	587,738	476,003	111,735	

(注) 1. 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、サービスの提供及び経営管理として当社及び一部の子会社が使用している部分も含むため、当該部分の売上高は計上されておりません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、修繕費等)については、営業費用に含まれております。

2. 売上高及び営業費用は、賃貸収益とこれに対応する費用(減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等)であり、連結損益計算書の「売上高」、「売上原価」及び「販売費及び一般管理費」に計上されております。

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 賃貸等不動産の概要

当社及び一部の子会社では、大阪府その他の地域において、賃貸用オフィスビル等を有しております。なお、賃貸用オフィスビルの一部については、当社及び一部の子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

2 賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額			連結決算日における時価
	前連結会計年度末残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
賃貸等不動産	757,541	157,771	599,769	617,164
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	4,981,554	271,860	4,709,693	4,020,000

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 主な変動

増加は、賃貸物件の設備更新 12,846千円
 減少は、賃貸物件の自社利用への振替 147,304千円
 減価償却費 294,266千円

3. 時価の算定方法

当連結決算日における時価は、主要な不動産については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額であります。また直近の不動産鑑定評価を行った時から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、社外の不動産鑑定士によって適切な調整を行って時価を算定しております。その他の不動産については、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づく価額等による金額であります。

3 賃貸等不動産に関する損益

(単位：千円)

	売上高	営業費用	営業利益	その他 (売却損益等)
賃貸等不動産	109,315	26,410	82,904	
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	585,233	474,444	110,789	

(注) 1. 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、サービスの提供及び経営管理として当社及び一部の子会社が使用している部分も含むため、当該部分の売上高は計上されておりません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、修繕費等)については、営業費用に含まれております。

2. 売上高及び営業費用は、賃貸収益とこれに対応する費用(減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等)であり、連結損益計算書の「売上高」、「売上原価」及び「販売費及び一般管理費」に計上されております。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	内燃機関	産業機器	不動産賃貸	計	消去又は 全社	連結
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客 に対する売上高	60,961,491	2,120,978	700,503	63,782,973		63,782,973
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高			181,256	181,256	(181,256)	
計	60,961,491	2,120,978	881,759	63,964,229	(181,256)	63,782,973
営業費用	53,257,423	2,091,405	502,250	55,851,080	2,526,362	58,377,443
営業利益	7,704,068	29,572	379,509	8,113,149	(2,707,619)	5,405,530
資産、減価償却費						
減損損失及び資本的支出						
資産	52,973,136	835,714	6,011,189	59,820,040	4,187,172	64,007,213
減価償却費	2,564,747	5,118	315,519	2,885,385	8,535	2,893,921
減損損失			146,940	146,940		146,940
資本的支出	3,372,552		26,558	5,169,629		5,169,629

(注) 1 事業区分の方法

当企業グループの事業区分方法は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

(1) 内燃機関.....船舶用及び陸用内燃機関並びに同部品

(2) 産業機器.....アルミホイール

(3) 不動産賃貸.....事務所及び駐車場の賃貸

3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の主なものは、当社管理部門(経営企画、管理、経理等)にかかる費用であります。

当連結会計年度 2,460,627千円

4 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の主なものは、当社での余資運用資金(現金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券等)及び管理部門に係る資産等であります。

当連結会計年度 5,195,403千円

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	日本	東南アジア	その他の地域	計	消去又は 全社	連結
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	49,875,232	9,106,667	4,801,073	63,782,973		63,782,973
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	13,232,189	93,896	334,078	13,660,165	(13,660,165)	
計	63,107,422	9,200,563	5,135,152	77,443,138	(13,660,165)	63,782,973
営業費用	55,842,360	8,920,137	4,831,211	69,593,708	(11,216,265)	58,377,443
営業利益	7,265,062	280,425	303,941	7,849,429	(2,443,899)	5,405,530
資産	62,872,573	3,475,969	1,892,206	68,240,748	(4,233,535)	64,007,213

- (注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 日本以外の区分に属する主な国または地域
 東南アジア.....シンガポール・中国
 その他の地域.....イギリス・アメリカ
 3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の主なものは、当社管理部門(経営企画、管理、経理等)にかかる費用であります。
 当連結会計年度 2,460,627 千円
 4 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の主なものは、当社での余資運用資金(現金及び有価証券)、長期投資資金(投資有価証券等)及び管理部門に係る資産等であります。
 当連結会計年度 5,195,403 千円

【海外売上高】

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	東南アジア	中南米	その他の地域	計
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
海外売上高(千円)	25,141,009	1,040,798	4,125,771	30,307,578
連結売上高(千円)				63,782,973
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	39.4	1.6	6.5	47.5

- (注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 各区分に属する主な国または地域
 (1) 東南アジア.....韓国・中国・シンガポール・フィリピン
 (2) 中南米.....ブラジル
 (3) その他の地域.....イギリス・アメリカ
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の事業構成を財務情報として区分し、定期的開催する取締役会において行う、各事業別年間事業計画の達成水準評価のための財務報告に基づいております。

当社は、内燃機関の製造販売を本業とし、一部で関連会社への内燃機関関連以外の製品供給と、当社が所有する不動産を活用する事業を行っております。

当社事業の大部分を占める内燃機関は、船舶用と陸上用とでその稼働状況が大きく異なっておりますので、当社といたしましては機関の生産・販売からアフターサービスに至るまでの事業活動を船舶用と陸上用とに区分して管理・評価しております。

従って、当社の報告セグメントは船用機関関連事業と陸用機関関連事業の2つで構成しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

資産及び負債は、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、検討を行う対象としていないため記載しておりません。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額 (注)	連結財務 諸表計上 額(注)
	船用機関 関連	陸用機関 関連	計				
売上高							
(1)外部顧客への 売上高	53,987,598	6,973,893	60,961,491	2,821,481	63,782,973		63,782,973
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高							
計	53,987,598	6,973,893	60,961,491	2,821,481	63,782,973		63,782,973
セグメント利益 又は損失()	8,457,125	263,168	8,193,957	484,755	8,678,712	3,273,182	5,405,530
その他の項目 減価償却費	2,544,569	88,964	2,633,534	234,867	2,868,402	25,519	2,893,921

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機器関連事業及び不動産賃貸関連事業を含んでおります。

セグメント利益の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

資産については、事業セグメントに配分しておりません。

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額 (注)	連結財務 諸表計上 額(注)
	船用機関 関連	陸用機関 関連	計				
売上高							
(1)外部顧客への 売上高	48,447,444	7,342,655	55,790,099	2,318,223	58,108,323		58,108,323
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高							
計	48,447,444	7,342,655	55,790,099	2,318,223	58,108,323		58,108,323
セグメント利益	8,303,917	220,199	8,524,117	529,393	9,053,510	2,820,829	6,232,680
その他の項目							
減価償却費	2,223,876	303,469	2,527,345	253,329	2,780,675	192,100	2,972,776

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機器関連事業及び不動産賃貸
 関連事業を含んでおります。

セグメント利益の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

資産については、事業セグメントに配分しておりません。

(追加情報)

当連結会計年度より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年
 3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20
 号 平成20年3月21日)を適用しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	東南アジア	中南米	その他 の地域	合計
33,475,395	25,141,009	1,040,798	4,125,771	63,782,973

(注) 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるた
 め、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はあ
 りません。

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	東南アジア	中南米	その他の地域	合計
30,753,923	22,066,420	1,619,778	3,668,202	58,108,323

(注) 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	全社・消去	合計
	船用機関 関連	陸用機関 関連	計			
減損損失				146,940		146,940

(注) 「その他」の金額は、不動産賃貸関連事業に係るものであります。

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

資産については、事業セグメントに配分しておりません。

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

資産については、事業セグメントに配分しておりません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
その他の関係会社	ダイハツ工業(株)	大阪府池田市	28,404,346	自動車等各種車両及びその部品の製造・販売	(被所有) 35.28 (0.11) (注1)	(注2)	製品の販売(注3、4)	1,870,025	売掛金	596,470

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

- 注1. 議決権等の(被所有)割合の欄:()は間接被所有割合を示し内数であります。
 2. 関連当事者との関係は以下の通りであります。
 ・当社に対し、監査役3名を派遣しております。
 ・当社に対し、建物を賃貸しております。
 ・当社製品を納入しております。
 3. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して決定しております。
 4. 取引金額及び期末残高は、消費税等を含みます。

連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
その他の関係会社の子会社	(株)ダイハツメタル	兵庫県川西市	205,000	自動車等各種車両部品の製造・販売	直接 7.67	(注1)	原材料の購入(注2、3)	3,438,854	支払手形買掛金	810,800 412,585

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

- 注1. 関連当事者との関係は以下の通りであります。
 ・当社は関連当事者に対し、取締役1名を派遣しております。
 ・関連当事者は当社に対し、製品を納入しております。
 2. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して決定しております。
 3. 取引金額及び期末残高は、消費税等を含みます。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
その他の関係会社	ダイハツ工業(株)	大阪府池田市	28,404,346	自動車等各種車両及びその部品の製造・販売	(被所有) 35.28 (0.11) (注1)	(注2)	製品の販売(注3、4)	1,479,101	売掛金	415,710

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

- 注1. 議決権等の(被所有)割合の欄:()は間接被所有割合を示し内数であります。
 2. 関連当事者との関係は以下の通りであります。
 ・当社に対し、監査役2名を派遣しております。
 ・当社製品を納入しております。
 3. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して決定しております。
 4. 取引金額及び期末残高は、消費税等を含みます。

連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
その他の関係会社の子会社	(株)ダイハツメタル	兵庫県川西市	205,000	自動車等各種車両部品の製造・販売	直接 7.67	(注1)	原材料の購入(注2、3)	2,459,908	支払手形買掛金	669,500 287,411

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

- 注1. 関連当事者との関係は以下の通りであります。
 ・当社は関連当事者に対し、取締役1名を派遣しております。
 ・関連当事者は当社に対し、製品を納入しております。
 2. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して決定しております。
 3. 取引金額及び期末残高は、消費税等を含みます。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
 該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	600円35銭	1株当たり純資産額	699円12銭
1株当たり当期純利益金額	109円15銭	1株当たり当期純利益金額	110円83銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
当期純利益(千円)	3,475,301	3,528,637
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る当期純利益(千円)	3,475,301	3,528,637
普通株式の期中平均株式数(株)	31,838,020	31,837,533

(重要な後発事象)

前連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
 該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
 該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
ダイハツディーゼル株	第四回無担保社債	平成17年 5月25日	500,000		0.97	無担保	平成22年 5月25日
合計			500,000				

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	5,550,000	7,080,000	0.65	
1年以内に返済予定の長期借入金	1,682,853	3,291,116	2.19	
1年以内に返済予定のリース債務	684,675	603,389	2.22	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	7,276,716	3,985,600	2.19	平成24年～平成29年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	1,253,674	758,136	2.22	平成24年～平成28年
その他有利子負債				
合計	16,447,919	15,718,242		

(注) 1 平均利率算定方法は、主な借入金及びリース債務については期中平均で算出し、少額な借入金及びリース債務は期末日利率で計算しております。

2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	長期借入金 (千円)	リース債務 (千円)
1年超～2年以内	1,014,000	445,738
2年超～3年以内	523,600	245,898
3年超～4年以内	2,044,200	51,856
4年超～5年以内	48,800	14,642

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度末及び直前連結会計年度末における資産除去債務の金額が当該各連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における各四半期連結会計期間に係る売上高等

	第1四半期 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	第2四半期 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	第3四半期 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	第4四半期 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
売上高 (千円)	14,452,198	11,881,361	14,267,271	17,507,492
税金等調整前 四半期純利益金額 (千円)	975,326	830,809	1,276,271	2,766,796
四半期純利益金額 (千円)	532,668	508,434	797,707	1,689,826
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	16.73	15.96	25.05	53.07

2【財務諸表等】
 (1)【財務諸表】
 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,410,241	10,069,284
受取手形	482,442	794,992
売掛金	² 18,313,159	² 16,189,545
原材料	19,639	66,032
仕掛品	10,191,493	9,092,556
前払費用	125,251	141,676
繰延税金資産	1,958,668	2,164,943
未収入金	312,937	292,441
関係会社短期貸付金	3,375,000	3,045,000
その他	17,874	18,576
貸倒引当金	3,078	1,662
流動資産合計	38,203,629	41,873,385
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,059,668	6,148,373
減価償却累計額	3,615,055	3,835,711
建物(純額)	2,444,613	2,312,661
構築物	1,278,482	1,280,534
減価償却累計額	770,684	819,355
構築物(純額)	507,798	461,178
機械及び装置	17,370,689	17,354,371
減価償却累計額	10,182,675	11,144,589
機械及び装置(純額)	7,188,014	6,209,781
車両運搬具	277,356	275,818
減価償却累計額	181,243	206,523
車両運搬具(純額)	96,113	69,295
工具、器具及び備品	6,154,510	6,362,103
減価償却累計額	4,882,950	5,372,072
工具、器具及び備品(純額)	1,271,559	990,030
土地	3,231,259	3,232,430
建設仮勘定	93,918	304,593
有形固定資産合計	¹ 14,833,277	¹ 13,579,972

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
無形固定資産		
ソフトウェア	1,536,152	1,087,050
その他	21,093	16,768
無形固定資産合計	1,557,246	1,103,818
投資その他の資産		
投資有価証券	679,022	586,018
関係会社株式	1,341,903	1,361,903
従業員に対する長期貸付金	32,337	14,323
破産更生債権等	6,645	10,620
繰延税金資産	1,642,058	1,737,900
保険積立金	74,844	98,606
その他	538,337	535,117
貸倒引当金	44,306	30,790
投資その他の資産合計	4,270,842	4,313,700
固定資産合計	20,661,366	18,997,491
資産合計	58,864,995	60,870,877
負債の部		
流動負債		
支払手形	6,771,602	6,252,061
買掛金	2 6,517,310	2 6,821,271
短期借入金	5,550,000	7,080,000
リース債務	666,593	590,112
1年内返済予定の長期借入金	1 1,549,653	1 3,157,916
1年内償還予定の社債	500,000	-
未払金	231,279	279,709
未払費用	3,348,248	3,101,696
未払法人税等	299,927	1,468,842
前受金	295,933	352,807
預り金	2 3,401,738	2 3,166,779
賞与引当金	628,800	566,900
役員賞与引当金	65,000	65,000
関係会社整理損失引当金	420,000	630,000
設備関係支払手形	1,131,399	55,244
その他	43,277	24,021
流動負債合計	31,420,762	33,612,363

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
固定負債		
長期借入金	1 7,009,116	1 3,851,200
リース債務	1,217,012	731,187
退職給付引当金	4,005,112	4,031,877
役員退職慰労引当金	347,979	394,896
長期預り保証金	58,000	58,000
資産除去債務	-	95,346
その他	-	41,279
固定負債合計	12,637,221	9,203,786
負債合計	44,057,984	42,816,150
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,434,300	2,434,300
資本剰余金		
資本準備金	2,150,863	2,150,863
資本剰余金合計	2,150,863	2,150,863
利益剰余金		
利益準備金	221,740	221,740
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	97,746	89,673
別途積立金	6,000,000	8,000,000
繰越利益剰余金	3,820,999	5,117,145
利益剰余金合計	10,140,485	13,428,558
自己株式	7,918	8,124
株主資本合計	14,717,730	18,005,598
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	98,040	49,131
繰延ヘッジ損益	8,758	2
評価・換算差額等合計	89,281	49,128
純資産合計	14,807,011	18,054,727
負債純資産合計	58,864,995	60,870,877

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
売上高	1 57,783,453	1 52,448,979
売上原価		
当期製品製造原価	47,084,792	40,047,939
売上原価合計	1, 3 47,084,792	1, 3 40,047,939
売上総利益	10,698,660	12,401,040
販売費及び一般管理費		
販売費	5,049,718	5,008,936
一般管理費	2,460,627	2,820,829
販売費及び一般管理費合計	2 7,510,346	2 7,829,766
営業利益	3,188,314	4,571,273
営業外収益		
受取利息	1 66,530	1 55,788
有価証券利息	3,971	2,995
受取配当金	1 590,104	1 1,081,704
受取補償金	44,100	-
雑収入	133,204	134,992
営業外収益合計	837,910	1,275,480
営業外費用		
支払利息	295,376	254,308
為替差損	-	45,164
雑損失	24,541	18,491
営業外費用合計	319,917	317,964
経常利益	3,706,307	5,528,790
特別利益		
貸倒引当金戻入額	6,910	18,915
固定資産売却益	4 180	4 622
特別利益合計	7,091	19,538
特別損失		
固定資産廃棄損	5 27,503	5 13,027
固定資産売却損	6 1,004	6 773
関係会社整理損失引当金繰入額	-	210,000
投資有価証券評価損	15,457	11,064
減損損失	7 146,940	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	58,253
その他	4,220	-
特別損失合計	195,127	293,117
税引前当期純利益	3,518,271	5,255,210
法人税、住民税及び事業税	1,109,740	1,987,107
法人税等調整額	106,511	274,673
法人税等合計	1,216,251	1,712,433
当期純利益	2,302,019	3,542,777

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)		当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
当期製造費用					
(1) 材料費		29,699,730	64.9	26,221,110	65.2
(2) 労務費		5,946,552	13.0	5,380,213	13.4
(3) 経費	1	10,121,963	22.1	8,603,285	21.4
計		45,768,245	100.0	40,204,609	100.0
期首仕掛品たな卸高		12,740,251		10,191,493	
合計		58,508,497		50,396,102	
期末仕掛品たな卸高		10,191,493		9,092,556	
仕掛品他勘定振替高	2	1,232,210		1,255,607	
当期製品製造原価		47,084,792		40,047,939	

脚注

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																
1 原価計算の方法	<p>当社は「原価計算基準」に準拠し、主として個別実際原価計算を行っておりますが、一部標準原価計算を採用しております。原価要素は材料費、労務費及び経費に区別しております。</p> <p>製造間接費については、部門別に計算し、標準額と実際額との差額は原価差額として期末に売上原価とたな卸資産に調整しております。</p>	同左																
2 (1) 経費の主な内訳	<p style="text-align: right;">千円</p> <table border="1"> <tr> <td>外注加工費</td> <td>5,578,613</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>1,974,381</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7,552,994</td> </tr> </table>	外注加工費	5,578,613	減価償却費	1,974,381	合計	7,552,994	<p style="text-align: right;">千円</p> <table border="1"> <tr> <td>外注加工費</td> <td>4,169,737</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>2,078,940</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,248,677</td> </tr> </table>	外注加工費	4,169,737	減価償却費	2,078,940	合計	6,248,677				
外注加工費	5,578,613																	
減価償却費	1,974,381																	
合計	7,552,994																	
外注加工費	4,169,737																	
減価償却費	2,078,940																	
合計	6,248,677																	
3 (2) 仕掛品他勘定振替高の内訳	<p style="text-align: right;">千円</p> <table border="1"> <tr> <td>機械装置等 有形固定資産</td> <td>600,743</td> </tr> <tr> <td>販売費及び 一般管理費</td> <td>626,185</td> </tr> <tr> <td>営業外費用</td> <td>5,281</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,232,210</td> </tr> </table>	機械装置等 有形固定資産	600,743	販売費及び 一般管理費	626,185	営業外費用	5,281	合計	1,232,210	<p style="text-align: right;">千円</p> <table border="1"> <tr> <td>機械装置等 有形固定資産</td> <td>824,639</td> </tr> <tr> <td>販売費及び 一般管理費</td> <td>426,293</td> </tr> <tr> <td>営業外費用</td> <td>4,675</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,255,607</td> </tr> </table>	機械装置等 有形固定資産	824,639	販売費及び 一般管理費	426,293	営業外費用	4,675	合計	1,255,607
機械装置等 有形固定資産	600,743																	
販売費及び 一般管理費	626,185																	
営業外費用	5,281																	
合計	1,232,210																	
機械装置等 有形固定資産	824,639																	
販売費及び 一般管理費	426,293																	
営業外費用	4,675																	
合計	1,255,607																	

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	2,434,300	2,434,300
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,434,300	2,434,300
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	2,150,863	2,150,863
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,150,863	2,150,863
資本剰余金合計		
前期末残高	2,150,863	2,150,863
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,150,863	2,150,863
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	221,740	221,740
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	221,740	221,740
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
前期末残高	106,363	97,746
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	8,617	8,072
当期変動額合計	8,617	8,072
当期末残高	97,746	89,673
別途積立金		
前期末残高	4,500,000	6,000,000
当期変動額		
別途積立金の積立	1,500,000	2,000,000
当期変動額合計	1,500,000	2,000,000
当期末残高	6,000,000	8,000,000

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
繰越利益剰余金		
前期末残高	3,265,068	3,820,999
当期変動額		
剰余金の配当	254,706	254,703
別途積立金の積立	1,500,000	2,000,000
固定資産圧縮積立金の取崩	8,617	8,072
当期純利益	2,302,019	3,542,777
当期変動額合計	555,930	1,296,146
当期末残高	3,820,999	5,117,145
利益剰余金合計		
前期末残高	8,093,172	10,140,485
当期変動額		
剰余金の配当	254,706	254,703
別途積立金の積立	-	-
固定資産圧縮積立金の取崩	-	-
当期純利益	2,302,019	3,542,777
当期変動額合計	2,047,313	3,288,073
当期末残高	10,140,485	13,428,558
自己株式		
前期末残高	7,693	7,918
当期変動額		
自己株式の取得	225	205
当期変動額合計	225	205
当期末残高	7,918	8,124
株主資本合計		
前期末残高	12,670,643	14,717,730
当期変動額		
剰余金の配当	254,706	254,703
当期純利益	2,302,019	3,542,777
自己株式の取得	225	205
当期変動額合計	2,047,087	3,287,868
当期末残高	14,717,730	18,005,598

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	43,588	98,040
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	54,451	48,908
当期変動額合計	54,451	48,908
当期末残高	98,040	49,131
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	42,823	8,758
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	34,064	8,756
当期変動額合計	34,064	8,756
当期末残高	8,758	2
評価・換算差額等合計		
前期末残高	765	89,281
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	88,515	40,152
当期変動額合計	88,515	40,152
当期末残高	89,281	49,128
純資産合計		
前期末残高	12,671,408	14,807,011
当期変動額		
剰余金の配当	254,706	254,703
当期純利益	2,302,019	3,542,777
自己株式の取得	225	205
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	88,515	40,152
当期変動額合計	2,135,602	3,247,715
当期末残高	14,807,011	18,054,727

【重要な会計方針】

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
1 有価証券の評価基準及び評価方法 (1) 子会社株式及び関連会社株式 ……移動平均法に基づく原価法 (2) その他有価証券 ・時価のあるもの ……期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。) ・時価のないもの ……移動平均法に基づく原価法	1 有価証券の評価基準及び評価方法 (1) 子会社株式及び関連会社株式 同左 (2) その他有価証券 ・時価のあるもの 同左 ・時価のないもの 同左
2 たな卸資産の評価基準及び評価方法 仕掛品・原材料 ……総平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)	2 たな卸資産の評価基準及び評価方法 同左
3 固定資産の減価償却の方法 (1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定額法を採用しております。 なお、平成19年 3月31日以前に取得したものについて、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から 5年間で均等償却する方法によっております。 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。 (3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	3 固定資産の減価償却の方法 (1) 有形固定資産(リース資産を除く) 同左 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 同左 (3) リース資産 同左

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>4 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、当事業年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。 なお、会計基準変更時差異(5,741,788千円)については、15年による按分額を費用処理しております。 また、過去勤務債務はその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理をしており、数理計算上の差異はその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により翌期から費用処理をすることとしております。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に充てるため、役員退職慰労金規定に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>(6) 関係会社整理損失引当金 関係会社の整理に伴う損失の発生に備えるため、対象会社の財政状態等を勘案し、翌期以後の発生見込額を計上しております。</p>	<p>4 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 役員賞与引当金 同左</p> <p>(4) 退職給付引当金 同左</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(6) 関係会社整理損失引当金 同左</p>

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
5 ヘッジ会計の方法 (1) ヘッジ会計の方法 為替予約が付けられている外貨建金銭債権債務については、振当処理を行っております。 また、ヘッジ会計の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。 (a) ・ヘッジ手段：為替先物予約 ・ヘッジ対象：製品輸出による外貨建売上債権 (b) ・ヘッジ手段：金利スワップ ・ヘッジ対象：借入金 (3) ヘッジ方針 「デリバティブ取引の取り扱い及びリスク管理規定」に基づき、為替変動リスク及び金利変動リスクを回避する手段としてデリバティブ取引を行っております。 (4) ヘッジの有効性評価の方法 為替予約及び金利スワップについては、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動を完全に相殺するものと想定できるため、ヘッジの有効性の評価は省略しております。	5 ヘッジ会計の方法 (1) ヘッジ会計の方法 同左 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 同左 (3) ヘッジ方針 同左 (4) ヘッジの有効性評価の方法 同左
6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 (1) 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。	6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 (1) 消費税等の会計処理 同左

【会計方針の変更】

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	(資産除去債務に関する会計基準等) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。 これにより、当事業年度の営業利益、経常利益はそれぞれ4,313千円、税引前当期純利益は62,566千円減少しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日現在)	当事業年度 (平成23年3月31日現在)
<p>1 土地のうち1,980,337千円、建物のうち1,401,467千円及び機械装置のうち395,147千円については、長期借入金(1年以内返済長期借入金を含む)206,300千円の担保として財団抵当等に供しております。</p>	<p>1 土地のうち1,574,737千円、建物のうち1,286,356千円及び機械装置のうち294,226千円については、長期借入金(1年以内返済長期借入金を含む)81,100千円の担保として財団抵当等に供しております。</p>
<p>2 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。</p>	<p>2 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。</p>
<p>売掛金 14,195,229千円</p>	<p>売掛金 11,035,154千円</p>
<p>買掛金 1,319,520</p>	<p>買掛金 1,058,270</p>
<p>預り金 3,327,851</p>	<p>預り金 3,078,724</p>
<p>3 偶発債務</p>	<p>3 偶発債務</p>
<p>(1) 保証予約</p>	<p>(1) 保証予約</p>
<p>ダイハツディーゼル 梅田シティ(株) 400,800千円</p>	<p>ダイハツディーゼル 梅田シティ(株) 267,600千円</p>
<p>(保証予約を受けている会社が債権者に提供している担保 = 土地建物等の額 4,981,554千円)</p>	<p>(保証予約を受けている会社が債権者に提供している担保 = 土地建物等の額 4,709,693千円)</p>

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																																																																																										
<p>1 関係会社との取引に係るもの</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">売上高</td> <td style="text-align: right;">37,634,357千円</td> </tr> <tr> <td>仕入高</td> <td style="text-align: right;">8,950,208</td> </tr> <tr> <td>受取利息</td> <td style="text-align: right;">61,792</td> </tr> <tr> <td>受取配当金</td> <td style="text-align: right;">572,388</td> </tr> </table>	売上高	37,634,357千円	仕入高	8,950,208	受取利息	61,792	受取配当金	572,388	<p>1 関係会社との取引に係るもの</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">売上高</td> <td style="text-align: right;">37,358,058千円</td> </tr> <tr> <td>仕入高</td> <td style="text-align: right;">8,047,153</td> </tr> <tr> <td>受取利息</td> <td style="text-align: right;">48,749</td> </tr> <tr> <td>受取配当金</td> <td style="text-align: right;">1,037,274</td> </tr> </table>	売上高	37,358,058千円	仕入高	8,047,153	受取利息	48,749	受取配当金	1,037,274																																																																										
売上高	37,634,357千円																																																																																										
仕入高	8,950,208																																																																																										
受取利息	61,792																																																																																										
受取配当金	572,388																																																																																										
売上高	37,358,058千円																																																																																										
仕入高	8,047,153																																																																																										
受取利息	48,749																																																																																										
受取配当金	1,037,274																																																																																										
<p>2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;"></th> <th style="text-align: center;">販売費</th> <th style="text-align: center;">一般管理費</th> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">千円</td> <td style="text-align: center;">千円</td> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>荷造運送費</td><td style="text-align: right;">965,555</td><td></td></tr> <tr><td>販売諸掛費</td><td style="text-align: right;">796,072</td><td></td></tr> <tr><td>給料</td><td style="text-align: right;">1,228,166</td><td style="text-align: right;">72,882</td></tr> <tr><td>賃金</td><td></td><td style="text-align: right;">36,900</td></tr> <tr><td>賞与</td><td style="text-align: right;">184,213</td><td style="text-align: right;">139,126</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">124,180</td><td style="text-align: right;">93,786</td></tr> <tr><td>福利厚生費</td><td style="text-align: right;">245,964</td><td style="text-align: right;">185,763</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">207,300</td><td style="text-align: right;">156,562</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td></td><td style="text-align: right;">82,656</td></tr> <tr><td>旅費交通費</td><td style="text-align: right;">175,983</td><td style="text-align: right;">63,251</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">189,972</td><td style="text-align: right;">366,987</td></tr> <tr><td>情報処理費</td><td style="text-align: right;">140,506</td><td style="text-align: right;">104,582</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td></td><td style="text-align: right;">134</td></tr> </tbody> </table>		販売費	一般管理費		千円	千円	荷造運送費	965,555		販売諸掛費	796,072		給料	1,228,166	72,882	賃金		36,900	賞与	184,213	139,126	賞与引当金繰入額	124,180	93,786	福利厚生費	245,964	185,763	退職給付費用	207,300	156,562	役員退職慰労引当金繰入額		82,656	旅費交通費	175,983	63,251	減価償却費	189,972	366,987	情報処理費	140,506	104,582	貸倒引当金繰入額		134	<p>2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;"></th> <th style="text-align: center;">販売費</th> <th style="text-align: center;">一般管理費</th> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">千円</td> <td style="text-align: center;">千円</td> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>荷造運送費</td><td style="text-align: right;">749,144</td><td></td></tr> <tr><td>販売諸掛費</td><td style="text-align: right;">928,965</td><td></td></tr> <tr><td>給料</td><td style="text-align: right;">685,552</td><td style="text-align: right;">672,590</td></tr> <tr><td>賃金</td><td></td><td style="text-align: right;">49,471</td></tr> <tr><td>賞与</td><td style="text-align: right;">190,705</td><td style="text-align: right;">122,766</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">104,137</td><td style="text-align: right;">67,038</td></tr> <tr><td>福利厚生費</td><td style="text-align: right;">269,753</td><td style="text-align: right;">173,654</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">209,450</td><td style="text-align: right;">134,833</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td></td><td style="text-align: right;">82,656</td></tr> <tr><td>旅費交通費</td><td style="text-align: right;">206,291</td><td style="text-align: right;">56,626</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">194,125</td><td style="text-align: right;">350,954</td></tr> <tr><td>情報処理費</td><td style="text-align: right;">132,106</td><td style="text-align: right;">87,223</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td></td><td style="text-align: right;">3,984</td></tr> </tbody> </table>		販売費	一般管理費		千円	千円	荷造運送費	749,144		販売諸掛費	928,965		給料	685,552	672,590	賃金		49,471	賞与	190,705	122,766	賞与引当金繰入額	104,137	67,038	福利厚生費	269,753	173,654	退職給付費用	209,450	134,833	役員退職慰労引当金繰入額		82,656	旅費交通費	206,291	56,626	減価償却費	194,125	350,954	情報処理費	132,106	87,223	貸倒引当金繰入額		3,984
	販売費	一般管理費																																																																																									
	千円	千円																																																																																									
荷造運送費	965,555																																																																																										
販売諸掛費	796,072																																																																																										
給料	1,228,166	72,882																																																																																									
賃金		36,900																																																																																									
賞与	184,213	139,126																																																																																									
賞与引当金繰入額	124,180	93,786																																																																																									
福利厚生費	245,964	185,763																																																																																									
退職給付費用	207,300	156,562																																																																																									
役員退職慰労引当金繰入額		82,656																																																																																									
旅費交通費	175,983	63,251																																																																																									
減価償却費	189,972	366,987																																																																																									
情報処理費	140,506	104,582																																																																																									
貸倒引当金繰入額		134																																																																																									
	販売費	一般管理費																																																																																									
	千円	千円																																																																																									
荷造運送費	749,144																																																																																										
販売諸掛費	928,965																																																																																										
給料	685,552	672,590																																																																																									
賃金		49,471																																																																																									
賞与	190,705	122,766																																																																																									
賞与引当金繰入額	104,137	67,038																																																																																									
福利厚生費	269,753	173,654																																																																																									
退職給付費用	209,450	134,833																																																																																									
役員退職慰労引当金繰入額		82,656																																																																																									
旅費交通費	206,291	56,626																																																																																									
減価償却費	194,125	350,954																																																																																									
情報処理費	132,106	87,223																																																																																									
貸倒引当金繰入額		3,984																																																																																									
<p>3 研究開発費の総額 研究開発費は売上原価に含まれており、次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">1,713,772千円</p>	<p>3 研究開発費の総額 研究開発費は売上原価に含まれており、次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">1,444,470千円</p>																																																																																										
<p>4 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;"></th> <th style="text-align: center;">売却益</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">180千円</td> </tr> </tbody> </table>		売却益	機械及び装置	180千円	<p>4 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;"></th> <th style="text-align: center;">売却益</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">622千円</td> </tr> </tbody> </table>		売却益	機械及び装置	622千円																																																																																		
	売却益																																																																																										
機械及び装置	180千円																																																																																										
	売却益																																																																																										
機械及び装置	622千円																																																																																										
<p>5 固定資産廃棄損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">3,416千円</td></tr> <tr><td>構築物</td><td style="text-align: right;">377</td></tr> <tr><td>機械及び装置</td><td style="text-align: right;">15,798</td></tr> <tr><td>車両運搬具</td><td style="text-align: right;">91</td></tr> <tr><td>工具器具及び備品</td><td style="text-align: right;">7,819</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">27,503</td></tr> </tbody> </table>	建物	3,416千円	構築物	377	機械及び装置	15,798	車両運搬具	91	工具器具及び備品	7,819	計	27,503	<p>5 固定資産廃棄損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">2,704千円</td></tr> <tr><td>構築物</td><td style="text-align: right;">3</td></tr> <tr><td>機械及び装置</td><td style="text-align: right;">5,736</td></tr> <tr><td>工具器具及び備品</td><td style="text-align: right;">4,582</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">13,027</td></tr> </tbody> </table>	建物	2,704千円	構築物	3	機械及び装置	5,736	工具器具及び備品	4,582	計	13,027																																																																				
建物	3,416千円																																																																																										
構築物	377																																																																																										
機械及び装置	15,798																																																																																										
車両運搬具	91																																																																																										
工具器具及び備品	7,819																																																																																										
計	27,503																																																																																										
建物	2,704千円																																																																																										
構築物	3																																																																																										
機械及び装置	5,736																																																																																										
工具器具及び備品	4,582																																																																																										
計	13,027																																																																																										

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)														
<p>6 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">1,004千円</td> </tr> </table> <p>7 減損損失 当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>場所</td> <td>滋賀県守山市</td> </tr> <tr> <td>用途</td> <td>不動産賃貸関連資産</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>建物、構築物、機械及び装置</td> </tr> </table> <p>当社は、グルーピングの基準を事業の種類別セグメントとし、事業の用に供していない遊休資産については個々の物件単位でグルーピングしております。</p> <p>当該資産については、将来獲得するであろうキャッシュ・フローで帳簿価額を全額回収できる可能性が低いと認められることから、146,940千円の減損損失を認識いたしました。</p> <p>減損を実施した資産の回収可能価額は、正味売却価額により測定しております。当該資産の正味売却価額は零として評価をしております。</p>	機械及び装置	1,004千円	場所	滋賀県守山市	用途	不動産賃貸関連資産	種類	建物、構築物、機械及び装置	<p>6 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">757千円</td> </tr> <tr> <td>工具器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">16</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">773</td> </tr> </table>	機械及び装置	757千円	工具器具及び備品	16	計	773
機械及び装置	1,004千円														
場所	滋賀県守山市														
用途	不動産賃貸関連資産														
種類	建物、構築物、機械及び装置														
機械及び装置	757千円														
工具器具及び備品	16														
計	773														

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	11,663	400		12,063

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取による増加 400株

当事業年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	12,063	627		12,690

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取による増加 627株

[次へ](#)

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
ファイナンス・リース取引 (借主側) (1)リース資産の内容 ・有形固定資産 主として事務機器(コピー機、コンピュータサーバ、コンピュータ端末)であります。 ・無形固定資産 主として販売・生産管理用ソフトウェアであります。 (2)リース資産の減価償却の方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	ファイナンス・リース取引 (借主側) (1)リース資産の内容 ・有形固定資産 同左 ・無形固定資産 同左 (2)リース資産の減価償却の方法 同左

(有価証券関係)

前事業年度(平成22年 3月31日現在)

(追加情報)

当事業年度から平成20年 3月10日改正の「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準委員会 企業会計基準第10号)及び同日公表の「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第19号)を適用しております。

子会社株式(貸借対照表計上額1,233,492千円)及び関連会社株式(貸借対照表計上額108,411千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成23年 3月31日現在)

子会社株式(貸借対照表計上額1,253,492千円)及び関連会社株式(貸借対照表計上額108,411千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日現在)	当事業年度 (平成23年3月31日現在)																																														
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">1,626,075</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金</td> <td style="text-align: right;">255,292</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金</td> <td style="text-align: right;">188,407</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金</td> <td style="text-align: right;">141,279</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">2,158,821</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,369,876</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">635,329</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,734,546</td> </tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>固定資産圧縮積立金</td> <td style="text-align: right;">66,809</td> </tr> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">67,010</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">133,820</td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">繰延税金資産の純額</p> <p style="text-align: right; border-top: 3px double black;">3,600,726</p>	退職給付引当金	1,626,075	賞与引当金	255,292	貸倒引当金	188,407	役員退職慰労引当金	141,279	その他	2,158,821	繰延税金資産小計	4,369,876	評価性引当額	635,329	繰延税金資産合計	3,734,546	固定資産圧縮積立金	66,809	その他有価証券評価差額金	67,010	繰延税金負債合計	133,820	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <p>(繰延税金資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">1,636,942</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金</td> <td style="text-align: right;">230,161</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金</td> <td style="text-align: right;">267,371</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金</td> <td style="text-align: right;">160,328</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">2,077,273</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,372,076</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">361,050</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,011,025</td> </tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>固定資産圧縮積立金</td> <td style="text-align: right;">61,291</td> </tr> <tr> <td>資産除去債務に対応する 除去費用</td> <td style="text-align: right;">13,308</td> </tr> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">33,581</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">108,181</td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">繰延税金資産の純額</p> <p style="text-align: right; border-top: 3px double black;">3,902,844</p>	退職給付引当金	1,636,942	賞与引当金	230,161	貸倒引当金	267,371	役員退職慰労引当金	160,328	その他	2,077,273	繰延税金資産小計	4,372,076	評価性引当額	361,050	繰延税金資産合計	4,011,025	固定資産圧縮積立金	61,291	資産除去債務に対応する 除去費用	13,308	その他有価証券評価差額金	33,581	繰延税金負債合計	108,181
退職給付引当金	1,626,075																																														
賞与引当金	255,292																																														
貸倒引当金	188,407																																														
役員退職慰労引当金	141,279																																														
その他	2,158,821																																														
繰延税金資産小計	4,369,876																																														
評価性引当額	635,329																																														
繰延税金資産合計	3,734,546																																														
固定資産圧縮積立金	66,809																																														
その他有価証券評価差額金	67,010																																														
繰延税金負債合計	133,820																																														
退職給付引当金	1,636,942																																														
賞与引当金	230,161																																														
貸倒引当金	267,371																																														
役員退職慰労引当金	160,328																																														
その他	2,077,273																																														
繰延税金資産小計	4,372,076																																														
評価性引当額	361,050																																														
繰延税金資産合計	4,011,025																																														
固定資産圧縮積立金	61,291																																														
資産除去債務に対応する 除去費用	13,308																																														
その他有価証券評価差額金	33,581																																														
繰延税金負債合計	108,181																																														
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：%)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.6</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に 算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">1.5</td> </tr> <tr> <td>住民税均等割額</td> <td style="text-align: right;">0.3</td> </tr> <tr> <td>税額控除</td> <td style="text-align: right;">5.9</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1.9</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後法人税等 の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">34.6</td> </tr> </table>	法定実効税率	40.6	(調整)		交際費等永久に損金に 算入されない項目	1.5	住民税均等割額	0.3	税額控除	5.9	その他	1.9	税効果会計適用後法人税等 の負担率	34.6	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(単位：%)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.6</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に 算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">1.1</td> </tr> <tr> <td>受取配当金等永久に益金に 算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">8.1</td> </tr> <tr> <td>住民税均等割額</td> <td style="text-align: right;">0.2</td> </tr> <tr> <td>税額控除</td> <td style="text-align: right;">2.2</td> </tr> <tr> <td style="margin-top: 10px;">その他</td> <td style="text-align: right;">0.9</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後法人税等 の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">32.6</td> </tr> </table>	法定実効税率	40.6	(調整)		交際費等永久に損金に 算入されない項目	1.1	受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	8.1	住民税均等割額	0.2	税額控除	2.2	その他	0.9	税効果会計適用後法人税等 の負担率	32.6																
法定実効税率	40.6																																														
(調整)																																															
交際費等永久に損金に 算入されない項目	1.5																																														
住民税均等割額	0.3																																														
税額控除	5.9																																														
その他	1.9																																														
税効果会計適用後法人税等 の負担率	34.6																																														
法定実効税率	40.6																																														
(調整)																																															
交際費等永久に損金に 算入されない項目	1.1																																														
受取配当金等永久に益金に 算入されない項目	8.1																																														
住民税均等割額	0.2																																														
税額控除	2.2																																														
その他	0.9																																														
税効果会計適用後法人税等 の負担率	32.6																																														

(企業結合等関係)

前事業年度(平成22年3月31日現在)
 該当事項はありません。

当事業年度(平成23年3月31日現在)
 該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

当社の使用しております事業所の一部は、その所有者との間で、不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了による原状回復義務に関し資産除去債務を計上しております。

また当社の使用しております事業所の一部において、必要と考えられる有害物質を除去する義務に関しても資産除去債務を計上しております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等は、使用見込期間をその契約始期から15年と見積り、割引率は国債の流通利回りである1.854%を使用して、資産除去債務の金額を算定しております。

(3) 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高(注)	94,350千円
時の経過による調整額	995
期末残高	95,346

(注) 当事業年度より「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)		当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	
1株当たり純資産額	465円07銭	1株当たり純資産額	567円09銭
1株当たり当期純利益	72円30銭	1株当たり当期純利益	111円27銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
当期純利益(千円)	2,302,019	3,542,777
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る当期純利益(千円)	2,302,019	3,542,777
普通株式の期中平均株式数(株)	31,838,020	31,837,533

(重要な後発事象)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引 当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	6,059,668	107,877	19,172	6,148,373	3,835,711	183,877	2,312,661
構築物	1,278,482	2,240	188	1,280,534	819,355	48,856	461,178
機械及び装置	17,370,689	201,184	217,503	17,354,371	11,144,589	1,170,508	6,209,781
車両運搬具	277,356	3,107	4,645	275,818	206,523	29,925	69,295
工具、器具及び備品	6,154,510	362,874	155,281	6,362,103	5,372,072	637,830	990,030
土地	3,231,259	1,171		3,232,430			3,232,430
建設仮勘定	93,918	788,474	577,799	304,593			304,593
有形固定資産計	34,465,885	1,466,930	974,590	34,958,225	21,378,252	2,070,998	13,579,972
無形固定資産							
ソフトウェア	2,560,994	99,244	289,074	2,371,165	1,284,114	548,347	1,087,050
その他	44,964	350	10,002	35,312	18,544	4,675	16,768
無形固定資産計	2,605,959	99,594	299,076	2,406,477	1,302,658	553,022	1,103,818
長期前払費用							
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	資産除去債務		89,338千円
機械及び装置	端面孔マシニングセンター(2号機)	一式	56,529
"	反転機(水平移動付)	一式	23,300
"	ライフ試験機(アルミホイール試験設備)	一式	18,050
工具器具及び備品	木型・金型 新作	一式	212,849
ソフトウェア	POSITIVEパッケージライセンス関連	一式	21,350
"	KIDS V2.9.0 追加開発関連	一式	13,033
建設仮勘定	上記資産の増加に係るものであります。		

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	47,385	3,984		18,915	32,453
賞与引当金	628,800	566,900	628,800		566,900
役員賞与引当金	65,000	65,000	65,000		65,000
役員退職慰労引当金	347,979	75,211	28,293		394,896
関係会社整理損失 引当金	420,000	210,000			630,000

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、一般債権の洗替による戻入額1,415千円及び債権回収による取崩額17,500千円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

1 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	2,638
預金	
当座預金	2,086,659
普通預金	1,304,986
定期預金	6,675,000
小計	10,066,645
合計	10,069,284

2 受取手形

相手先名	金額(千円)
双日マリンアンドエンジニアリング(株)	410,246
(株)西島製作所	310,417
(株)守谷商会	42,735
クボタエンジン販売サービス(株)	10,749
富士貿易(株)	6,156
その他	14,687
合計	794,992

期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成23年4月	111,939
5月	113,115
6月	278,423
7月	177,544
8月	77,396
9月	36,573
合計	794,992

3 売掛金

相手先名	金額(千円)
ダイハツディーゼル東日本(株)	2,264,782
ダイハツディーゼル中日本(株)	2,160,660
ダイハツディーゼル西日本(株)	1,897,597
DAIHATSU DIESEL (SHANGHAI) CO.,LTD.	1,464,415
ダイハツディーゼル四国(株)	1,108,164
その他	7,293,924
合計	16,189,545

期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
18,313,159	53,964,707	56,088,321	16,189,545	77.6	116.7

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

4 たな卸資産

原材料

品目	金額(千円)
鋼材	66,032
合計	66,032

仕掛品

内訳	金額(千円)
内燃機関	8,966,500
産業機器	121,797
その他	4,258
合計	9,092,556

5 関係会社短期貸付金

貸付先	金額(千円)
ダイハツディーゼル梅田シティ(株)	1,670,000
NHN興産(株)	1,375,000
合計	3,045,000

負債の部

1 支払手形

相手先名	金額(千円)
青山貿易(株)	968,864
(株)ダイハツメタル	669,500
双日マリンアンドエンジニアリング(株)	502,191
西芝電機(株)	187,161
大同メタル工業(株)	185,265
その他	3,739,078
合計	6,252,061

期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成23年4月	1,450,394
5月	1,697,220
6月	1,382,366
7月	1,406,161
8月	315,918
合計	6,252,061

2 買掛金

相手先名	金額(千円)
ボッシュ(株)	2,305,160
英和(株)	405,599
青山貿易(株)	311,207
日鍛バルブ(株)	304,334
(株)ダイハツメタル	287,411
その他	3,207,559
合計	6,821,271

3 短期借入金

相手先名	金額(千円)
(株)三菱東京UFJ銀行	1,700,000
(株)三井住友銀行	1,660,000
(株)りそな銀行	630,000
(株)伊予銀行	520,000
(株)三菱UFJ信託銀行	480,000
その他	2,090,000
合計	7,080,000

4 未払費用

項目名	金額(千円)
原材料・工事費	2,127,885
経費・販管費	495,611
労務費・給料賃金	314,906
その他	163,292
合計	3,101,696

5 預り金

項目名	金額(千円)
ダイハツディーゼル東日本(株)	701,135
ダイハツディーゼル部品サービス(株)	685,421
ダイハツディーゼル中日本(株)	607,053
ダイハツディーゼル四国(株)	332,122
その他	841,046
合計	3,166,779

6 長期借入金

相手先名	金額(千円)
(株)三菱東京UFJ銀行	1,547,000 (720,000)
(株)三井住友銀行	949,000 (509,000)
(株)りそな銀行	934,000 (524,000)
農林中央金庫	798,600 (82,400)
(株)滋賀銀行	794,400 (430,400)
その他	1,986,116 (892,116)
合計	7,009,116 (3,157,916)

(注) 1 金額は、1年以内に返済する金額を含んでおります。
 2 ()内の金額は1年以内に返済する金額であります。

7 退職給付引当金

項目名	金額(千円)
退職給付債務	6,142,104
未認識過去勤務債務	164,691
未認識数理計算上の差異	414,390
会計基準変更時差異の未処理額	1,531,144
合計	4,031,877

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、大阪市において発行する日本経済新聞に掲載して行います。
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)	有価証券報告書 及びその添付書類並 びに確認書	事業年度 (第50期)	自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	平成22年6月29日 近畿財務局長に提出
(2)	内部統制報告書及び その添付書類	事業年度 (第50期)	自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	平成22年6月29日 近畿財務局長に提出
(3)	四半期報告書及び 確認書	(第51期第1四半期)	自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日	平成22年8月11日 近畿財務局長に提出
		(第51期第2四半期)	自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	平成22年11月12日 近畿財務局長に提出
		(第51期第3四半期)	自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	平成23年2月10日 近畿財務局長に提出
(4)	臨時報告書(注)	事業年度 (第50期)	自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	平成22年6月30日 近畿財務局長に提出

(注)企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の
 規程に基づく臨時報告書

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年 6月29日

ダイハツディーゼル株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 本 操 司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 橋 留 隆 志

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているダイハツディーゼル株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイハツディーゼル株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ダイハツディーゼル株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、ダイハツディーゼル株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
- 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年 6月29日

ダイハツディーゼル株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 操 司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 豊原 弘 行

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているダイハツディーゼル株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイハツディーゼル株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ダイハツディーゼル株式会社の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、ダイハツディーゼル株式会社が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
- 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成22年 6月29日

ダイハツディーゼル株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 本 操 司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 橋 留 隆 志

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているダイハツディーゼル株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイハツディーゼル株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
 - 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成23年 6月29日

ダイハツディーゼル株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 本 操 司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 豊 原 弘 行

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているダイハツディーゼル株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第51期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイハツディーゼル株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
 - 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。